授業科目	英語Ⅲ（読解） English Ⅲ	担当教員	松尾　文子
対象学科・年次・学期	看護学科/栄養学科・2 年次・前期	選択・必修	選択
授業形態	演習	単位数	1 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
		◎						

授業目的	1． 一般的な英語表現形式の確認を行い、読解能力を強化する。 2． 医療・栄養・福祉分野の文献を読む。 3． 本文を通して、今日的なテーマに対する興味を持つ。
到達目標	1． 英文の内容を正確に把握する。 2． テキストを通じて英語の表現力を高める。 3． テキストを通じて語彙力を高める。
関連科目	英語 I, II, IV
テキスト	*Food in History.* Tamura E.T. and Takahashi M.（英宝社, 2022）
参考書	

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準・観点
	試験	70	学んだことの理解度を測る中間試験と定期試験 70%、授業で行う小テスト 20%、授業の取り組み姿勢 10% で評価する。 中間・定期試験を未受験の場合は、評価の対象としない。
	レポート		
	小テスト	20	
	提出物		
	その他	10	

履修上の留意事項	分からない語句はあらかじめ調べておく。テキストの Drills の提出は任意だが、積極的に取り組むことが望ましい。
課題に対するフィードバックの方法	中間試験は解答を配布し、各自確認してもらう。基準点に達しなかった学生には課題を出し、コメントを付して返却する。小テストで扱う表現に関するプリントを、あらかじめ授業中に配布する。小テストの答え合わせは授業中に行う。テキストの Drills に関しては、コメントを付して返却する。
実務経験を活かした教育内容	

回数(担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1	ブタと豚肉にまつわる歴史	Introduction / Lesson 1: The Pig or the Pork	テキストの予習・主に語彙の確認（1 時間）
2	ニンニクにまつわる歴史	Lesson 2: Do You Like Garlic?	テキストの予習・主に語彙の確認（1 時間）
3	砂糖にまつわる歴史	Lesson 3: Sweet as Sugar	テキストの予習・主に語彙の確認（1 時間）
4	パンにまつわる歴史	Lesson 4: Our Daily Bread	テキストの予習・主に語彙の確認（1 時間）
5	キャビアにまつわる歴史	Lesson 5: Do You Like Caviar?	テキストの予習・主に語彙の確認（1 時間）
6	リンゴにまつわる歴史	Lesson 6: Apples	テキストの予習・主に語彙の確認（1 時間）
7	塩にまつわる歴史	Lesson 7: The White Gold: Salt	テキストの予習・主に語彙の確認（1 時間）
8	これまでのテキストの理解度確認	中間試験	試験勉強・次回の授業の予習（4 時間）
9	チーズにまつわる歴史	Lesson 8: Say Cheese	テキストの予習・主に語彙の確認（1 時間）
10	豆にまつわる歴史	Lesson 9: Beans	テキストの予習・主に語彙の確認（1 時間）
11	フォアグラにまつわる歴史	Lesson 10: Foie Gras	テキストの予習・主に語彙の確認（1 時間）

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
12	コメにまつわる歴史	Lesson 11: An Important Cereal	テキストの予習・主に語彙の確認（１時間）
13	パスタにまつわる歴史	Lesson 12: Pasta	テキストの予習・主に語彙の確認（１時間）
14	チョコレートにまつわる歴史	Lesson 13: Chocolate	テキストの予習・主に語彙の確認（１時間）
15	ハチミツにまつわる歴史	Lesson 14: A Taste of Honey	テキストの予習・主に語彙の確認（１時間）

授業科目	英語Ⅳ（総合） English Ⅳ	担当教員	松尾　文子
対象学科・年次・学期	看護学科/栄養学科・2 年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	演習	単位数	1 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
		◎						

授業目的	1．英語の 4 技能を含む総合的な語学能力の向上を目指す。 2．英語のプレゼンテーションを通じて、英語の運用能力の向上を目指す。
到達目標	1．英文の内容を正確に把握できる。 2．専門領域の文献を読むことができる。 3．自分の考えをまとめて英語で口頭発表できるようにする。
関連科目	英語 I, II, III
テキスト	*A Healthy Mind, A Healthy Body*. Ishikawa E., Sano J. et al.（朝日出版社, 2014）
参考書	

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準・観点
	試験	70	学んだことの理解度を測る定期試験 70%。Unit ごとの単語の小テスト 20%、授業の取り組み姿勢 10% で評価する。 定期試験を未受験の場合は、評価対象としない。
	レポート		
	小テスト	20	
	提出物		
	その他	10	

履修上の留意事項	分からない語句はあらかじめ辞書で調べておく。テキストの練習問題にある Writing を提出することが望ましい。
課題に対するフィードバックの方法	中間試験は解答例を配布し、各自確認してもらう。基準点に達しなかった学生には課題を出し、コメントを付して返却する。小テストの答え合わせを授業中に行い、Teams に関連情報をアップする。Writing 提出者には、コメントを付して返却する。
実務経験を活かした教育内容	

回数（担当）	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1	健康とは	Introduction / Unit 1: What is health?	テキストの予習・主に語彙の確認（1 時間）
2	美容整形の影響	Unit 2: Reconstructing lives	テキストの予習・主に語彙の確認（1 時間）
3	災害後の心のケア	Unit 3: Mental health disaster relief not always clear cut	テキストの予習・主に語彙の確認（1 時間）
4	看護師と介護福祉士の不足	Unit 4: Japan needs more nurses and care-workers	テキストの予習・主に語彙の確認（1 時間）
5	ヨガの効能	Unit 5: Yoga’s spiritual balance may boost health	テキストの予習・主に語彙の確認（1 時間）
6	カロリー計算	Unit 6: Do you count calories?	テキストの予習・主に語彙の確認（1 時間）
7	ガン発生率の高騰	Unit 7: Clinical oncology	テキストの予習・主に語彙の確認（1 時間）
8	これまでのテキストの理解度確認	中間試験	試験勉強・次回の授業の予習（4 時間）
9	禁煙	Unit 8: It’s never too late to quit smoking	テキストの予習・主に語彙の確認（1 時間）
10	生活習慣の見直しと糖尿病	Unit 9: Overcoming diabetes with diet and exercise	テキストの予習・主に語彙の確認（1 時間）
11	子供の肥満率の指標	Unit 10: Body mass index may not reflect child obesity	テキストの予習・主に語彙の確認（1 時間）
12	再生医療と iPS 細胞	Unit 11: The future of regenerative medicine and iPS cells	テキストの予習・主に語彙の確認（1 時間）

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
13	高度医療を支える	Unit 12: Need a nurse? You may have to wait	テキストの予習・主に語彙の確認 （１時間）
14	高齢化社会の負担	Unit 13: Preparing for a future that includes aging parents	テキストの予習・主に語彙の確認 （１時間）
15	ストレス解消法	Unit 14: Simple everyday ways to de-stress and relax	テキストの予習・主に語彙の確認 （１時間）

授業科目	社会貢献と活動 Volunteer and Social Responsibility	担当教員	岩本　希
対象学科・年次・学期	看護学科/栄養学科・2 年次・前期	選択・必修	選択
授業形態	演習	単位数	1 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	◎	○	○					

授業目的	政府は「個人がどのような状況に置かれても、自分らしく活躍できる社会」を望ましい社会像として打ち出し、その背景に『地域共生社会』というコンセプトを掲げている。超高齢社会が進行し地域のつながりが希薄化した現代において住民同士の支え合いは不可欠とされ、2025 年までの構築を目指している「地域包括ケアシステム」でもボランタリーセクターは重要な存在感を示している。地域共生社会が目指すのは、対象者ごとの保健・医療・福祉サービスを「縦割り」から「丸ごと」へ、支援者と被支援者という二律対抗軸からの脱却へと転換していくことにある。 本科目では保健・医療・福祉の枠組が変更される中で、ボランティアの意義を踏まえ、多種多様なボランティア活動が地域にどう関わり、どう地域を変え、支えているのかについて学ぶ。特に近年重要視され話題となっている世代を問わない居場所の課題や本学に関連する保健、医療、栄養、福祉などの領域とボランティア活動の関連を学び、地域で暮らす住民が抱えるニーズを知り、行政・地域住民・各種事業所及び専門職等との連携についても学んでいく。 また、専門職としての視点のみならず、若者の立場で社会にある問題を捉えどのように解決に貢献できるか自身の考えを深めることを目的とする。
到達目標	1.ボランティア活動の意義を正しく理解するとともに、ボランティア活動を通して当事者のニーズを把握できること。 2.地域住民や当事者のニーズに対して、専門職のあり方やネットワークの構成などの要件について学び、ボランティアの役割・あり方・限界などについて理解できること。 3.現代社会のニーズやボランティアの多様性を理解し、これからの社会に求められているボランティア像や社会貢献の形を自分なりに描くことができること。
関連科目	「現代社会論」「地域社会文化論」「国際社会論」につながる科目である。
テキスト	内容に沿った資料を随時配布する。
参考書	1.柴田謙治・原田正樹・名賀亨編「ボランティア論～「広がり」から「深まり」へ～」（みらい）2010 2. 前林清和著「Win-Win の社会をめざして」（晃洋書房）2009 3 内海成治、中村安秀著「新ボランティア学のすすめ」（昭和堂）2014

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準・観点
	試験	50	目標の到達状況を下記の方法で評価する。 講義の際のレポートや発表、グループワークでの役割遂行など授業態度を点数化し、50%を上限として評価します。並びに定期試験も 50%を上限とし、授業態度・試験の得点を合わせて総合的に評価します。
	レポート	30	
	小テスト		
	提出物		
	その他	20	

履修上の留意事項	グループワーク（演習）、ゲストスピーカー講義のほか、ボランティア実践を予定しています。 各授業の前後に 30 分の予習、30 分の復習を要する。
課題に対するフィードバックの方法	
実務経験を活かした教育内容	

回数（担当）	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1	社会貢献、ボランティアとは？	オリエンテーション 自分のボランティア経験を発表 ボランティアに対する自分なりの理解	ボランティア経験を振り返ること
2	ボランティア活動の沿革	諸外国でのボランティア活動の歴史と我が国でのボランティア活動の歩みを学ぶ。	北海道で活動しているボランティア団体について調べてくること
3	ボランティア活動の内容	ボランティア活動の内容を、領域別、対象別、方法別に検討する。	自分がしてみたいボランティア活動を考えること
4	社会福祉協議会とボランティア	社協の幅広いボランティア活動について学ぶ。	社協の仕事を　HP　で確認すること
5	医療・高齢者福祉とボランティア	医療・高齢者福祉の分野でのボランティア活動について学ぶ。（ゲストスピーカー　木村 洋美 氏）	医療・高齢者福祉で実際に行われているボランティア活動を調べてくること。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	児童福祉・障害者福祉とボランティア	児童分野・障害者分野でのボランティア活動について学ぶ。	児童・障害者分野で実際に行われているボランティア活動を調べてくること。
7	NPO・NGO とボランティア	NPO や NGO のボランティア活動、国際ボランティアなどについて学ぶ。	ボランティアを主体的な活動としている NPO 団体を調べてくること。
8	企業・労働組合とボランティア	企業のCSR、労働組合のボランティアの取組、様々な組織の社会貢献活動について学ぶ。	企業が取り組んでいる社会貢献活動について１つ調べてくること。
9	環境・災害ボランティア	環境ボランティア、災害ボランティアについて学ぶ。	環境ボランティア、災害ボランティアに取り組む団体をそれぞれひとつ挙げること
10	ボランティア実習	１日ボランティア体験をする。	実習先に関する情報を調べておくこと。
11	ボランティア体験を振り返る	ボランティア体験から得られた知見を発表し振り返る。	ボランティア体験をまとめておくこと。
12	ボランティアのコーディネート	ボランティアをコーディネートする技術について学ぶ。	ボランティアの担い手について調べておくこと。
13	ボランティア組織の運営	ボランティア組織の立ち上げ、運営、資金、ＰＲなどについて学ぶ。	助成金情報を調べること。
14	現代社会とボランティア	現代社会における諸問題とボランティアのあり方を考える。	現代社会で支援が必要な人について考察すること。
15	私たちのボランティア論	自分たちが理想的と考えるボランティアのあり方をまとめ、プレゼンテーションする（具体的なボランティア提供を前提として）。	ボランティアのための事業について企画を考えること。

授業科目	生活環境論 Environmental Life Science	担当教員	江本　匡
対象学科・年次・学期	看護学科/栄養学科・2 年次・前期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	2 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	○	◎	○				

授業目的	人間を取り巻く自然および社会・文化的な環境をシステムという視点から再考し、それらの相互関係を深く認識するとともに、現在、システムで進行している様々な問題点を深く理解し、人の健康と生活の充実、健全な社会の発展という面から、課題に柔軟に対応できる能力の涵養を目的とする。
到達目標	1.自然環境、生活環境と健康との関わりの概略を説明できる。 2.生活全般をカテゴリー化した構造をもとにヘルスプロモーションの概念を説明できる。 3.ストレスと免疫低下、病気との関係が概説できる。 4.生活習慣病を生体リズムの乱れ、後天性の代謝障害の面からも理解できる。 5.情報の収集・利活用と健康の関わりが説明できる。 6.地球温暖化の危険性、環境保全の重要性を認識し、保全活動を実践できる。
関連科目	高校レベルの生物、化学などの知識を基盤とするので各自復習をしておくこと。
テキスト	佐々木胤則編著「変化する環境と健康 改訂版」(三共出版)
参考書	テキストの章末を参照する。最新の資料は講義中に適時提示する。

評価方法・基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準・観点
	試験	60	目標の到達状況を、授業での小テストと期末試験により評価し、それぞれの評価割合は、小テスト(4 回予定)40%、定期試験 60%とする。なお、評価は 5 段階評価とし、総合で 60%以上を単位認定の基準とする。
	レポート		
	小テスト	40	
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	受講内容は社会情勢との関係性もあるので、ニュースなどの情報に気を配ることを望む。
課題に対するフィードバックの方法	小テスト結果は次回テスト時に結果をフィードバックする。
実務経験を活かした教育内容	これまでの環境関連の研究や業務経験を授業内容に展開していきたい。

回数(担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1	「健康のとらえ方」:生活環境と健康について	自然環境は生命活動が加わって時間と共に相互にゆっくりと変化してきたが、有史からは人間活動の影響を受けて、急速に変化した健康への考え方について概要する。文明・近代史を環境と人との相互関係から捉え、健康観の変化と感染症との関係を探る。(第 1 章)	事前にシラバスを読み、履修上の疑問点を確認しておく。総論の健康の捉え方を読み、WHO がこの数十年に取り組んできた活動を整理する。
2	「環境と健康」:近年の動向	健康に関わる事項として、感染症との戦い、増え続ける生活習慣病、環境破壊による健康被害、増大する心の病、困窮する健康福祉体制の現在までの状況を整理し、今後の方向を探る。(第 2 章)	第 2 章「環境と健康」に関する近年の動向を読み、将来につながる問題点をあげる。
3	「環境刺激に対する調節と適応」:恒常性、ストレス対応	環境刺激に対する調節・適応という事象を調節の局面から取り上げ、調節・適応の負の作用として、生活習慣病やアレルギー疾患増大について考える。ストレス刺激に対する脳のホメオスタシス機能からメンタルヘルスについて解説する。(第 3 章)	第 3 章生活環境における具体的なストレス場面を分類してみる。
4	「水、空気と健康問題 1」:汚染と健康問題の変遷 「1 回目小テスト」	生命にとっての水の役割を改めて解説し、近代産業によって引き起こされた環境汚染と健康被害の実情を取り上げ、自然との調和という面から生活環境整備を考える。(第 4 章) 第 1 回〜第 3 回までの内容での小テストを実施する。	近年の水質公害問題の経緯と問題点をまとめる。(第 4 章) 第 1 回〜第 3 回までの資料を確認しておく。(試験持込可)
5	「水、空気と健康問題 2」:汚染と健康問題の変遷 「リスク評価とリスクマネジメント」:リスクの考え方と理解	生命にとっての空気の役割を改めて解説し、近代産業によって引き起こされた環境汚染と健康被害の実情を取り上げ、自然との調和という面から生活環境整備を考える。(第 4 章) 日常生活における「リスク」の考え方、捉え方を学び、化学物質の健康への影響について理解する。(第 5 章)	近年の大気公害問題の経緯と問題点をまとめる。(第 4 章) リスク・リスクマネジメントについて事前に教科書を読んでおく。(第 5 章)

回数(担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	「生体防御と免疫システム」：免疫システムの理解	非自己から自己を守る免疫を生体防御システムとして概説し、ストレスを免疫システムのバランスを崩す因子ととらえ、病気との関連を考察する。(第 6 章)	免疫システムについて事前に情報を取っておく。
7	「人畜共通感染症、新興感染症」：感染症の理解 「2 回目小テスト」	人畜共通感染症、新興感染症を理解する。(第 7 章) 第 4 回～第 6 回までの内容での小テストを実施する。	コロナウイルス感染症について調べておく。 第 4 回～第 6 回までの資料を確認しておく。(試験持込可)
8	「人畜共通感染症、新興感染症」：新興感染症	各種の新興感染症について特性を概説し、予防や対策について考える。(第 7 章)	各種新興感染症について教科書(第 7 章)を読んでおく。
9	「放射線の環境拡散と健康影響」：放射線による健康影響の理解	放射線の特性とその健康影響の概要を理解して、放射性物質の管理について考える。(第 8 章)	放射線によるヒトへの影響について調べる。
10	「アレルギー性疾患の増加とその背景」：アレルギー疾患の理解	文明病とされるアレルギーについて、アトピー素因と生活環境の変化、アレルギー発症のメカニズムを理解する。(第 9 章)	アレルギーの発症メカニズムと化学物質過敏症について調べる。
11	「からだのリズムと健康、生活習慣病」：生体リズム等の理解 「3 回目小テスト」	からだのリズムと生体リズム、生活リズムとの関連をとらえ、代謝リズムの破綻として生活習慣病を再考する。(第 10 章) 第 7 回～第 10 回までの内容での小テストを実施する。	好ましい生活習慣について教科書(第 10 章)を読んでおく。 第 7 回～第 10 回までの資料を確認しておく。(試験持込可)
12	「環境におけるポジティブファクターと癒し」：生活環境における癒しと植物や風景の影響	人の生活圏の拡大、大規模開発によって生物種が急速に減少して多様性を失うことの問題点を解説し、それらを保護・保全しようという活動につながる癒しとビオトープについて考える。(第 11 章)	生物多様性を失うことの問題点を考える。
13	「情報化社会におけるコンピューターの利活用と健康」：VDT 作業と健康の理解	パソコンワークでの身体影響、情報伝達の歪みや不均衡、錯誤は QOL や心身の健康にも関連していること理解する。(第 12 章)	OA 機器とメンタルヘルスとの関係を調べる。
14	「予防原則から考える環境と健康」 「4 回目小テスト」	リスクアセスメントと予防原則の考え方を理解する。(第13章) 第 11 回～第 13 回までの内容での小テストを実施する。	予防原則の適用事例について教科書(第 13 章)を読んでおく。 第 11 回～第 13 回までの資料を確認しておく。(試験持込可)
15	「待ったなしの地球温暖化対策」：地球温暖化の進行と健康問題について	人為活動による地球温暖化が急速に進んでいることの観測データや今後の推測を紹介し、気候変動に伴う生活環境の変化が人の健康に与える影響を検討し、対応を提案する。また、リスクへの対応について考え方を理解する。(第 14 章)	温暖化による健康への影響について考える。

授業科目	現代社会論 Issues in Modern Society	担当教員	翁　康健
対象学科・年次・学期	栄養学科・2 年次・前期 看護学科・1 年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	○	◎	○				

授業目的	激変し続ける現代社会において、その変化に主体的に対応する必要がある。現代を生きる、医療人としての最低限の社会的常識を理解することがこの授業の目的である。
到達目標	1.現代社会の諸問題を理解し、自らの対処法が模索できる。 2.地域社会・家族・学校など身近な制度の仕組みを理解し、問題を発見し、対処法を模索できる。 3.現代社会を動かす仕組みを理解し、その対処方法を模索できる。
関連科目	「国際社会論」は現代社会論の発展科目として、履修することをお勧めします。
テキスト	特に指定しない。適宜プリントを配布する。
参考書	1. 櫻井義秀・飯田俊郎・西浦功編「アンビシャス社会学」（北海道大学出版会） 2. 櫻井義秀編「ウェルビーイングの社会学」（北海道大学出版会）

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準・観点
	試験		レポート（50%）と講義内で実施するミニ・レポート（50%）から目標の到達状況を評価する。
	レポート	50	
	小テスト		
	提出物	50	
	その他		

履修上の留意事項	・講義中に他の受講者の妨げとなる行為があった場合、講義室からの退出を命じることがある。 ・講義の進捗状況によって講義計画を変更する場合がある。
課題に対するフィードバックの方法	各回講義末尾に質疑応答の時間を設ける。加えて、講義後にもミニレポートを通じて意見・感想・疑問点の提出を求める。講義で取り上げることが適切と判断されるものについては、各回講義の冒頭（あるいは末尾）で紹介し、口頭で解説・回答するとともに、必要に応じて適宜資料を作成・配布することとする。
実務経験を活かした教育内容	

回数（担当）	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1	「社会学」の概観と社会調査	・講義の概要、方法、評価の説明 ・現代社会の捉え方（社会学的な視点） ・社会調査倫理	・事前学習：シラバスを確認し、授業の全体の内容を把握すること（2 時間） ・事後学習：社会学の中で関心のある話題や、授業で学びたいテーマを考えてみること（2 時間）
2	人間の行為と相互行為を理解する	・アイデンティティと役割 ・社会構造と社会的行為 ・逸脱行動と社会変動	・事前学習：第 2 回講義資料「人間の行為と相互行為を理解する」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：人間の行為と相互行為のメカニズムについて、自分なりに説明をしてみること（2 時間）
3	家族：家族関係の変容	・家族の制度と形態 ・家族の機能と役割 ・現代家族の課題と包摂の可能性	・事前学習：第 3 回講義資料「家族：家族関係の変容」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：家族関係の類型および変容について、講義から理解したことをまとめること（2 時間）

回数(担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
4	教育：学歴社会と文化的再生産	・学校教育の機能 ・文化的再生産 ・「平等」と教育	・事前学習：第 4 回講義資料「教育：学歴社会と文化的再生産」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：社会学の視点から教育を説明してみること（2 時間）
5	労働：非正規雇用と若者の就職問題	・雇用労働の成立と生き方の変容 ・職場で経験する労働の諸側面 ・企業構造転換とグローバリゼーションの中の労働	・事前学習：第 5 回講義資料「労働：非正規雇用と若者の就職問題」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：労働が関わる問題の例を考え、まとめること（2 時間）
6	階層と階級：格差と社会的排除	・人間社会の歴史と身分・階級・階層 ・日本の社会階層 ・貧困と社会的公正	・事前学習：第 6 回講義資料「階層と階級：格差と社会的排除」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：階層と階級の相違点を説明してみること（2 時間）
7	ジェンダーとセクシャリティ：フェミニズムと LGBT	・ジェンダー、セクシュアリティのはたらき ・フェミニズムと LGBT ・社会生活の維持と再生産―ケアとリプロダクション	・事前学習：第 7 回講義資料「ジェンダーとセクシャリティ：フェミニズムと LGBT」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：セクシュアルマイノリティが直面している問題の例を考え、まとめること（2 時間）
8	政治と社会運動：受益圏・受苦圏のジレンマ	・誰が、なぜ運動を起こすのか? ・社会運動研究の歴史 ・社会運動のいろいろ	・事前学習：第 8 回講義資料「政治と社会運動：受益圏・受苦圏のジレンマ」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：政治と社会運動のメカニズムについて、自分なりに説明をしてみること（2 時間）
9	グローバリゼーション：トランスナショナリズムとエスニシティ	・グローバリゼーションと国民国家 ・グローバリゼーションと社会変容―経済・政治・文化 ・グローバル化時代を生き抜くために	・事前学習：第 9 回講義資料「グローバリゼーション：トランスナショナリズムとエスニシティ」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：グローバル化のメリットとデメリットを考え、まとめること（2 時間）
10	メディアとコミュニケーション：情報社会の光と影	・メディアとは何か ・メディアで読み解く現代社会 ・ネット誹謗中傷とインスタ映え	・事前学習：第 10 回講義資料「メディアとコミュニケーション：情報社会の光と影」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：メディア社会のメリットとデメリットを考え、まとめること（2 時間）
11	宗教：宗教の社会貢献	・宗教とは ・さまざまな宗教 ・宗教と社会	・事前学習：第 11 回講義資料「宗教：宗教の社会貢献」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：宗教の社会的役割について、講義から理解したことをまとめること（2 時間）
12	少子高齢社会：子育て支援と高齢者介護	・少子高齢社会の実像 ・少子高齢化と保健・医療・福祉 ・これからの地域戦略	・事前学習：第 12 回講義資料「少子高齢社会：子育て支援と高齢者介護」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：少子高齢社会の問題点を、考えてまとめること（2 時間）

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
13	社会福祉：医療と社会保障	・福祉国家の成立 ・福祉国家の危機 ・多様な福祉モデルの展開	・事前学習：第 13 回講義資料「社会福祉：医療と社会保障」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：日本の社会福祉の特徴を整理し、まとめること（2 時間）
14	地域社会とソーシャル・キャピタル：結束型と橋渡し型	・地域コミュニティの必要性と可能性 ・都市的生活様式 ・健康・医療・コミュニティとソーシャル・キャピタル	・事前学習：第 14 回講義資料「地域社会とソーシャル・キャピタル：結束型と橋渡し型」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：地域社会づくりの設計について、考えてみること（2 時間）
15	全体のまとめ	・全体のまとめ ・期末レポートの案内	・事前学習：第 15 回講義資料「全体のまとめ」を確認し、これまでの学習内容を整理すること（2 時間） ・事後学習：15 回分の講義資料を確認し、全体の復習を行うこと（2 時間）

授業科目	国際社会論 International Sociology	担当教員	翁　康健
対象学科・年次・学期	看護学科/栄養学科・2 年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	○	◎	○				

授業目的	世界の地理や文化を理解するとともに、急変していく世界の情勢や社会、経済の中での国際的視野の拡大を図ることを目的とする。具体的には主権国家の意味について考え、異文化間、民族間、文明間の社会問題を理解し、国家間のマネジメント・コミュニケーションと交渉力の重要性について考える。また、グローバリゼーションの進展のなかで、人々の生活に与える影響や保健医療の問題などについて国際的な視点で考え、国際活動と共存のあり方について学習する。
到達目標	国際的な時事問題を理解できる社会人を目指す。
関連科目	「現代社会論」の知識が基盤である。
テキスト	特に指定しない。時事問題に関しては、視聴覚教材を利用する予定。
参考書	1.石井香世子編「国際社会学入門」（ナカニシヤ出版） 2.西原和久・樽本英樹編「現代人の国際社会学・入門―トランスナショナリズムという視点」（有斐閣コンパクト） 3.宮島喬・佐藤成基・小ヶ谷千穂編「国際社会学」（有斐閣）

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準・観点
	試験		定期試験（50%）と講義内で実施するミニ・レポート（50%）から目標の到達状況を評価する。
	レポート	50	
	小テスト		
	提出物	50	
	その他		

履修上の留意事項	・講義中に他の受講者の妨げとなる行為があった場合、講義室からの退出を命じることがある。 ・講義の進捗状況によって講義計画を変更する場合がある。
課題に対するフィードバックの方法	各回講義末尾に質疑応答の時間を設ける。加えて、講義後にもミニレポートを通じて意見・感想・疑問点の提出を求める。講義で取り上げることが適切と判断されるものについては、各回講義の冒頭（あるいは末尾）で紹介し、口頭で解説・回答するとともに、必要に応じて適宜資料を作成・配布することとする。
実務経験を活かした教育内容	

回数（担当）	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1	オリエンテーション・グローバリゼーション	・グローバリゼーション ・トランスナショナリズム	・事前学習：シラバスを確認し、授業の全体の内容を把握すること（2 時間） ・事後学習：関心のある話題や、授業で学びたいテーマを考えてみること（2 時間）
2	国境を越える人――移民と無国籍者の問題	・「移民」とはだれか ・国籍と市民権 ・グローバル化と無国籍者，身分証明	・事前学習：第 2 回講義資料「国境を越える人――移民と無国籍者の問題」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：移民と無国籍者の問題について、自分なりに説明をしてみること（2 時間）
3	グローバル化時代の難民・国内避難民	・「難民」とはだれか ・グローバル化時代の難民 ・難民の越境化をめぐる議論 ・日本における難民問題	・事前学習：第 3 回講義資料「グローバル化時代の難民・国内避難民」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：難民・国内避難民のことについて、講義から理解したことをまとめること（2 時間）
4	グローカル化がすすむ日常生活	・越境する家族 ・トランスナショナル教育 ・医療におけるグローバル化の進展	・事前学習：第 4 回講義資料「グローカル化がすすむ日常生活」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：越境する家族生活、教育、医療の問題をまとめること（2 時間）

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5	グローバル時代の観光・民族・宗教の問題	・グローバル化と国際観光 ・国境・観光・出稼ぎ労働者 ・グローバル化時代の宗教とアイデンティティ	・事前学習：第 5 回講義資料「グローバル時代の観光・民族・宗教の問題」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：グローバル社会における観光・民族・宗教の関係を整理すること（2 時間）
6	社会問題からみるローカルとグローバルの関係	・犯罪のグローバル化 ・ローカル資源とグローバル市場の間 ・紛争のグローバル化	・事前学習：第 6 回講義資料「社会問題からみるローカルとグローバルの関係」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：ローカルとグローバルの関係を説明してみること（2 時間）
7	国際格差と貧困問題	・貧困のグローバル化 ・ボーダーレス化する市場	・事前学習：第 7 回講義資料「国際格差と貧困問題」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：貧困のグローバル化とグローバル市場の格差について、まとめること（2 時間）
8	全体のまとめ・補足	・全体のまとめ ・期末レポートの案内	・事前学習：第 8 回講義資料「全体のまとめ」を確認し、これまでの学習内容を整理すること（2 時間） ・事後学習：8 回分の講義資料を確認し、期末レポートのテーマを考えること（2 時間）

授業科目	教育学 Education	担当教員	加藤　隆
対象学科・年次・学期	看護学科/栄養学科・2 年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	◎	○	○					

授業目的	人間の可能性と社会における教育の役割について歴史と現状から知見を提供するとともに、生涯学習社会における家庭教育や学校教育及び市民教育の課題と解決方向についてヒントを示す。
到達目標	受講者自身が今後経験する生涯学習の場面において自立した学習者として成長していく手がかりを得ること。
関連科目	教育原理　教職概論　健康教育論　倫理学
テキスト	適宜、プリント資料を配布する。
参考書	適宜、アナウンスする

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準・観点
	試験	70	学校教育と家庭教育、生涯教育、地域生活における現状と課題を中心に試験を課し、理解度及び文章による表現力を評価する。(70%) 授業態度及びレポート時や講義後の感想文などを「その他」対象とし、理解の努力を評価する。(30%)
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
	その他	30	

履修上の留意事項	なぜ？　どうして？という自身のつぶやきや問題意識を大切にし、意見交流やコメント交流を重視します。
課題に対するフィードバックの方法	毎回講義終了後に学生が授業評価とコメントを記載し、それに対して次回講義でコメントに対する意見交流を行う。また、提出物に関しても、観点のよさ、補足的意見を記載して学生に返却する。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、学校現場での事例を織り交ぜながら、今日の家庭教育や学校教育について理解しやすいように授業を行う。

回数(担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1	近代の教育思想（1）	ルソーの「子供の発見」、発達の思想、充実した生涯の提起	事前：事前配布した教育資料に目を通しておく（2 時間）事後：近代の教育思想について内容を整理し、考察を交えてノートにまとめる(2 時間)
2	近代の教育思想（2）	市民革命とコンドルセの家庭観・学校観・学問観	事前：事前配布した教育資料に目を通しておく（2 時間）事後：コンドルセの教育思想について内容を整理し、考察を交えてノートにまとめる(2 時間)
3	「新教育」の思想	学びの転換：デューイの思想と実験。子ども研究の始まり	事前：事前配布した教育資料に目を通しておく（2 時間）事後：学びの転換となったデューイの思想について考察も交えてレポート作成する（2 時間）
4	近代学校のあゆみ	ルターの義務就学論　アダム・スミスの公教育観　国家の学校政策関与	事前：事前配布した教育資料に目を通しておく（2 時間）事後：取り上げた教育思想について内容を整理し、考察を交えてノートにまとめる(2 時間)
5	日本の文明化と教育	西洋からの学び　福沢諭吉の一身独立の思想	事前：事前配布した教育資料に目を通しておく（2 時間）事後：明治期の教育状況についてまとめる。紹介した参考図書に目を通す（2 時間）

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	日本の学校制度の成立	森有礼の啓蒙と国家主義　内村鑑三の諭吉批判　ルソーと大正自由教育	事前：事前配布した教育資料に目を通しておく（2 時間）事後：授業で触れた三つのテーマについて、考察を交えてノートにまとめる(2 時間)
7	戦後日本の教育	「真の個人主義」、「高度成長」と競争教育、市民育成棚上げ	事前：新聞記事などからテーマの資料に目を通す（2 時間）事後：自身の経験も踏まえて、講義で取り上げた内容についてノートにまとめる(2 時間)
8	教育環境の変化と青年	「冷戦」以後の世界と青年。能力観・学校観の転換への期待	事前：事前配布した教育資料に目を通しておく（2 時間）事後：これまでの講義で取り上げたテーマから一つを選び、自身の見方の変化も含めてレポートにまとめる。(2 時間)

授業科目	文学と人間 Literature and Humanity	担当教員	畠山　瑞樹
対象学科・年次・学期	看護学科/栄養学科・2 年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	○	◎					

授業目的	文学は、長い間残り続け愛され続けている、人間社会の財産です。多様な文学作品をひもとき、自らの考えを深めることは、他を受容し自己の感性を高め、豊かな人間性を育むことに繋がります。 この講義では、日本の伝統的な文学や文化を通して、人間・社会・時代を構成する要素についてテーマ毎に考察します。日本人に馴染み深い昔話や魅力的な古典文学作品を対象とし、多くの作品の読解を通じて、体系的に基礎的な知識や教養を身に付けるとともに、自ら考え表現する力の基礎を培うことを目的とします。
到達目標	1.日本の文学や文化についての、基礎的な知識・教養を身に付けることができる。 2.文学・文化と人間との関わりについて、自ら考え表現することができる。
関連科目	高等学校の国語便覧等を利用し、古典文学の基礎を復習しておくことで、講義内容をより深く理解できる。
テキスト	なし（プリント配布）
参考書	講義時適宜紹介する。

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準・観点
	試験		レポート 60%＋小レポート 40%。小レポートは、①講義内容の整理と確認②自らの考察の表現化のため、随時実施する。レポートは、すべての講義終了後かつ定期試験期間前に、提出期限を定める（最終講義日から 1 週間後を予定）。 評価の観点は到達目標に示した 2 点。講義内容を理解し、日本の文学や文化に関する知識をどれだけ身に付けることができているか、またそれらを基に、自らの考察を深めそれを表現できているかを評価する。
	レポート	60	
	小テスト		
	提出物	40	
	その他		

履修上の留意事項	1.古典文学作品を多く読むことになるため留意すること。資料は事前に配布する。 2.進度により、講義で扱う作品および扱う回を変更する場合がある。
課題に対するフィードバックの方法	1.講義時に実施する小レポートは添削後返却を行い、各自が到達・改善のポイントを具体的に把握できるようにする。 2.前回実施した小レポートの内容について、次回講義時に総括を行い、到達目標への各自の達成度を確認できるようにする。
実務経験を活かした教育内容	

回数(担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1	ガイダンス 古典文学と現代	ガイダンス 現代における古典文学について考える（『落窪物語』） 中古の文学作品を読む	事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2 時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2 時間）
2	古典文学と昔話	視覚・聴覚について考える（「かぐや姫」） 上代・中古・中世の文学作品を読む	事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2 時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2 時間）
3	古典文学のはじまり	身体観について考える（『古事記』） 上代の文学作品を読む	事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2 時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2 時間）
4	古典文学の虚実	病について考える（『大鏡』『平家物語』） 中古・中世の文学作品を読む	事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2 時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2 時間）
5	古典文学の変遷①	享受について考える（「浦島太郎」）① 上代・中世・近世・近代の文学作品を読む	事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2 時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2 時間）

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	古典文学の変遷② 古典文学と文化①	享受について考える（「浦島太郎」）② 日本の文化と伝統について考える（牽牛織女伝説）① 上代・中世・近世・近代の文学作品を読む	事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（２時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（２時間）
7	古典文学と文化② 古典文学と伝説①	日本の文化と伝統について考える（牽牛織女伝説）② 日本の歴史と伝説について考える（義経伝説）① 中古・中世の文学作品を読む	事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（２時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（２時間）
8	古典文学と伝説②	日本の歴史と伝説について考える（義経伝説）② 中古・中世の文学作品を読む	事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（２時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（２時間）

授業科目	生命倫理 Bioethics	担当教員	森口　眞衣
対象学科・年次・学期	看護学科/栄養学科・2 年次・前期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○			◎			○	○

授業目的	現代の生命倫理に関する一般的問題について、自身の日常的な経験と倫理的判断の関係を理解することにより、基本的な視点や方法を身につける。また、人や生命についての概念の曖昧さを実感し、立場によって異なる見解を受け入れ尊重できる姿勢を養う必要性はどこにあるのか、倫理的議論が展開された歴史的背景を理解することにより、倫理原則と基礎理論、判断の基準、生命の尊厳についての理解を深める。
到達目標	我々が日常生活で無意識に直面している倫理的問題に対し、自分が適切だと考える判断を下すことができ、さらにその判断の理由を述べることができるようになる。また、ひとりの人間として自分だけでなく他者の立場も尊重すること、価値観に基づく見解や判断を提示することの重要性を理解できるようになる。
関連科目	（必修）倫理学 （選択）地域社会文化論、法と人権
テキスト	特に指定しない。スライドと配布資料を用いて展開する。
参考書	必要があればそのつど紹介する。

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準・観点
	試験	40	毎回の講義終了時、授業内容と関連する日常経験や仮想事例を用いた思考実験によるアンケートレポート形式の復習課題（30%）、および授業内容に関するリアクションコメント（30%）の提出を課す。試験では課題内容を踏まえ設問要求に応えた自身の意見を展開できているかという観点で評価する。
	レポート	30	
	小テスト		
	提出物	30	
	その他		

履修上の留意事項	倫理的判断の提示には自分の考えを適切な言葉で述べることが重要になる。授業中の課題では文章を書く機会を多く設定しているので、日常生活においても自分の意見を適切な文章で述べられるよう意識すること。 各授業の前後に 1〜2 時間の予習・1〜2 時間の復習を要する。
課題に対するフィードバックの方法	2 回目以降各回の講義冒頭で、前回講義時終了時に提出された復習課題に対する履修者の解答パターンや考察傾向の分析を提示する。
実務経験を活かした教育内容	

回数（担当）	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1	日常と倫理的判断の関係	倫理的判断は人々の立場や主張の方向性と密接な関係があることを踏まえ、多様性を尊重するという目的に沿う生命倫理での使いどころを理解する。	講義内容の振り返り、復習課題とリアクションコメントの提出
2	倫理的判断に必要な具体的原則	日常生活や臨床現場で求められる倫理的判断の根拠や着眼点となる倫理原則について、その必要性と内容を学んだうえで、実際の適用の難しさを考える。	講義内容の振り返り、復習課題とリアクションコメントの提出
3	命の判断：それは「人」ですか？	判断主体となる自己の曖昧さを、医学や科学技術の進歩によって新たに出現した様々な「人」を決める判断基準を通して理解する。	講義内容の振り返り、復習課題とリアクションコメントの提出
4	命の判断：いまは「健康」ですか？	人が「老いる」とはどういうことか、「健康」と「病気」はどう違うのか、人間の身体におきる様々な変化の境界について考える。	講義内容の振り返り、復習課題とリアクションコメントの提出
5	命の判断：これも「殺害」ですか？	科学的医学の発展に伴う「生命」概念の問題を、生殖医療の背景となる歴史的・社会的な側面での変遷を通して理解する。	講義内容の振り返り、復習課題とリアクションコメントの提出
6	命の判断：どれが「食物」ですか？	人が生きるうえで「よいもの」を目指した努力の結果「悪いもの」が作り出されてしまうのはなぜなのか、善悪の価値づけについて考える。	講義内容の振り返り、復習課題とリアクションコメントの提出

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7	命の判断：どちらが「大切」ですか？	社会では「人の命を守る」ことを目標としながら実際には逆のことが起きてしまう矛盾について、歴史的・理論的変遷の決着点を通して理解する。	講義内容の振り返り、復習課題とリアクションコメントの提出
8	他者の価値観尊重とは	これまでの考察の結果をふりかえり、自分の判断と他者の判断の相違点や新たな気づきの分析を通して、医療人として多様な価値観の理解が患者理解に有益となる可能性を考察する。	講義内容の振り返り、復習課題とリアクションコメントの提出

授業科目	医療概論 Introduction to Medical Care	担当教員	千葉　仁志
対象学科・年次・学期	栄養学科・2 年次・前期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	2 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○			◎				

授業目的	医学・医療全体について理解することを目的とする。医療関係職種の役割、チーム医療の必要性、医療を支えている医療保険制度、政策・法律、倫理を理解する。さらに、予防医療、移植医療、遺伝子医療、オーダーメイド医療、救急医療、災害医療、国際医療などの医療の新しい側面を理解し、医療の将来を展望する能力を養う。
到達目標	1. 医療関係職種のそれぞれの名称と役割を説明できる。 2. チーム医療の必要性と、そこでの管理栄養士の役割について説明できる。 3. 現代医療の基盤となっている医療政策、医療計画、法律、倫理などについて理解している。 4. 医療保険制度の概要を説明できる。 5. 予防医療、最先端医療、救急・災害医療など医療の様々な新しい側面について概要を説明できる。
関連科目	1 年次後期、2 年次前期、3 年次前期に履修する地域連携ケア論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、2 年次後期に履修する健康管理概論、4 年次後期に履修する栄養サポートチーム論などと、密接に関連する。
テキスト	編集 小橋　元、近藤　克則、黒田 研二、千代 豪昭「学生のための医療概論（第 4 版）」（医学書院）
参考書	「厚生の指標・増刊　国民衛生の動向」（最新版）（厚生労働統計協会）

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準・観点
	試験	70%	期末試験：到達目標に関する期末試験を実施し、学習到達度を評価する。学期の初めに配布する定期試験の練習問題と正解をよく学習し、定期試験の準備をすること。 小テスト：毎回の授業終了前に、当日の授業内容に関する小テストを行う。各回、60%以上を正解した場合に合格点を与える。 期末試験と小テストの得点合計が 60%以上の場合に合格とする。
	レポート		
	小テスト	30%	
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	メディアが伝える最新の医療関連情報に注意を向け、その情報の持つ意味や自分が感じた疑問点などを、テキスト・参考書・授業などで解決する姿勢を持つことが大切である。講義前にはレジュメを一読し、要点を把握して授業に参加すること。毎回の授業で実施する小テストに合格するには、授業に対して注意を絶やさず、授業時間内に重要事項を学修する姿勢が求められる。小テストでは FORMS を使用するので、送受信ができるように通信機器（PC、タブレット、スマートフォン）を準備して授業に参加すること。
課題に対するフィードバックの方法	毎回の授業終了前に実施する小テストでは、解答の送信後に正解と採点結果が直ちに返送される。間違った箇所をレジュメと教科書で確認し、理解と正しい情報の記憶に務めること。それが定期試験の合格につながる。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、医師としての臨床経験を講義に織り交ぜながら、医療の実状と課題について身近に感じ、理解できるように授業を行います。

回数（担当）	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1	ガイダンス、医療と人道主義	ガイダンス、医療における人道主義の歴史（個人情報保護、インフォームドコンセント）	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
2	医療の歩み	近代医学の誕生、感染症との闘い、周産期医療、公害・薬害、検査・治療の進歩	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
3	医療倫理	医療は誰のものか、患者の自己決定権、カルテとチーム医療	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
4	医療を支える人々	医療関係職種の名称と役割、チーム医療の重要性	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5	医療安全	医療事故の歴史、医療事故の実状、医療事故対策	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
6	保健医療サービス	日本の保健医療制度、医療施設、公衆衛生サービス	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
7	医療政策と医療計画	医療政策、医療計画、医療と経済	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
8	地域医療	在宅ケア、高齢者ケア、地域包括ケア	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
9	救急・災害・国際医療	救急医療の現状、災害医療の問題点、国際医療と日本	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
10	移植医療	移植医療の現状と課題	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
11	遺伝子医療	ゲノム医学、オーダーメイド医療、先制医療	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
12	リハビリテーションとノーマライゼーション	リハビリテーションとは何か、ノーマライゼーションの目指すもの、障がい者差別と対策	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
13	高齢者医療と精神医療	老人として生きる、精神を病むとは、老人医療と精神医療の現状と課題	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
14	ターミナルケア	尊厳死の現状と課題、ターミナルケアの目的	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
15	現代医療の新たな展開	補完代替医療、統合医療、定期試験について	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)

授業科目	健康管理概論 Health Science	担当教員	千葉　仁志
対象学科・年次・学期	栄養学科・2 年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				◎				

授業目的	紀元前から現代に至るまでの健康の概念の歴史、健康の指標、今日の健康増進や疾病予防の考え方や要素、健康を実現するための政策と具体的な取り組みについて学修し、生活や社会と健康の関わりを深く理解する。また、健康を阻害するリスク要因を理解し、健康増進の方法、技法等を修得する。さらに、わが国や海外における、法律に基づいた集団・地域の健康管理体制についても学修する。
到達目標	1. 健康の概念と健康指標や健康阻害要因について説明できる。 2. 疫学指標について説明できる。 3. 健康日本 21 の概要、課題や目標を説明できる。 4. 健康増進と健康づくりの方法について説明できる。 5. 健康管理チームにおける各専門家と管理栄養士の役割を説明できる。
関連科目	2 年前期に履修する医療概論、公衆衛生学、3 年次に履修する公衆栄養学 I（前期）・II（後期）と密接に関連する。
テキスト	尾島俊之、堤　明純「基礎から学ぶ健康管理概論 改訂第 5 版」（南江堂）
参考書	「厚生の指標・増刊　国民衛生の動向」（最新版）（厚生労働統計協会）

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準・観点
	試験	70%	期末試験：到達目標に関する期末試験を実施し、学習到達度を評価する。学期の初めに配布する定期試験の練習問題と正解をよく学習し、定期試験の準備をすること。 小テスト：毎回の授業終了前に、当日の授業内容に関する小テストを行う。各回、60%以上を正解した場合に合格点を与える。 期末試験と小テストの得点合計が 60%以上の場合に合格とする。
	レポート		
	小テスト	30%	
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	メディアが伝える最新の健康・健康リスク・疾病の情報に注意を向け、その情報の持つ意味や自分が感じた疑問点などを、テキスト・参考書・授業などで解決する姿勢を持つことが大切である。講義前にはレジュメを一読し、要点を把握して授業に参加すること。毎回の授業で実施する小テストに合格するには、授業に対して注意を絶やさず、授業時間内に重要事項を学修する姿勢が求められる。小テストでは FORMS を使用するので、送受信ができるように通信機器（PC、タブレット、スマートフォン）を準備して授業に参加すること。
課題に対するフィードバックの方法	毎回の授業終了前に実施する小テストでは、解答の送信後に正解と採点結果が直ちに返送される。間違った箇所をレジュメと教科書で確認し、理解と正しい情報の記憶に務めること。それが定期試験の合格につながる。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、健康管理事例などを講義に織り交ぜながら、健康管理について理解しやすいように授業を行います。

回数（担当）	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1	ガイダンス、健康の概念	講義スケジュールの説明。 WHO による健康の定義とその変遷、健康意識調査	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
2	健康管理と健康度評価	健康管理とプライマリ・ヘルスケア 健康度の判定指標と健康阻害要因、国際疾病分類	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
3	健康の現状	健康の現状を調べるための統計調査、日本の健康観と国民健康づくり運動の変遷	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
4	疫学指標と人口統計	罹患率と有病率、死亡率と致命率、相対危険と寄与危険、オッズとオッズ比、平均寿命と平均余命などの健康指標の定義、求め方、時代的推移	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5	健康増進・健康づくり行政	健康増進の基本概念、健康づくりの必要性と健康日本 21 特定健診・特定保健指導制度の概要	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
6	社会保障制度	国民皆保険制度、社会保障の 3 大制度、社会保険の種類、保険診療制度	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
7	食生活と健康づくり	国民健康・栄養調査、日本人の食事摂取基準（2020 年版）、食生活指針	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
8	運動と健康づくり	健康寿命延伸の 3 大阻害要因、認知症と生活習慣、運動基準と身体活動基準	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
9	休養・睡眠・ストレス対策と健康づくり	休養指針、睡眠指針、メンタルヘルスとストレスチェック制度	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
10	生活習慣病と健康管理	生活習慣病の疫学、喫煙と生活習慣病、受動喫煙と改正健康増進法、アルコール依存症とスクリーニングテスト	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
11	保健医療情報・保健指導	健診データ・保健医療情報の活用、メタボリックシンドローム、脂肪肝、アルコール性肝障害、特定保健指導の実際	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
12	母子保健	母子保健法と母子保健手帳、妊婦健康診査、B 型肝炎母子感染防止対策と HB ワクチンの定期接種化、健やか親子 21、妊婦と胎児の健康指標	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
13	高齢者保健と地域保健	高齢者の健康課題と健康診査、介護サービスの概要、 保健所と市町村保健センター、地域包括ケアシステム	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
14	学校保健	学校保健推進施策、養護教諭と栄養教諭、学校感染症、食物アレルギー、保健室と学校医	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
15	職域保健/定期試験ガイダンス	一般健康診断と特殊健康診断、トータル・ヘルス・プロモーション、健康管理室と産業医の役割、健康管理活動における栄養士・管理栄養士定期試験ガイダンス、例題集（模範解答＆解説付き）と定期試験過去問の配付	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間) 学期初めに配布した練習問題と正解を良く学習し、不明な点はレジュメ・テキスト・参考書や教員への質問で解決すること。

授業科目	公衆衛生学 Public Health	担当教員	板垣 康治
対象学科・年次・学期	栄養学科・2 年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				◎				

授業目的	公衆衛生の概念、公衆衛生・予防医学の歴史について学修する。また、生態系、環境と健康の関わりについて理解する。健康状態、疾病の状況の測定、評価等の基準となる疫学の概念について学修し、疫学指標や疫学の方法、スクリーニング、根拠にもとづいた保健対策とは何かを理解する。また、がん、循環器疾患、代謝疾患、感染症等の主要疾患の疫学と予防対策の現状、さらに衛生、栄養関連法規について学修する。
到達目標	1. 公衆衛生の概念、健康の定義について説明できる。 2. 健康に関する多くの要因とその解析手段について考え方と方法を説明できる。 3. 保健、医療、福祉、介護制度について説明できる。 4. 関係法規について説明できる。
関連科目	2 年後期に履修する公衆衛生学実習と密接に関連する。
テキスト	「シンプル衛生公衆衛生学 2023」小山洋監修（南江堂）
参考書	図説 国民衛生の動向

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準・観点
	試験	60	定期試験、授業中の取り組み姿勢（集中度、積極性、出席状況、授業への参加状況、態度）、最終試験などにより目標の到達状況を評価する。最終試験は、第 14 回目の授業において行う。
	レポート		
	最終試験	20	
	提出物		
	その他	20	

履修上の留意事項	各授業の前後に各 2 時間の予習・復習を必要とする
課題に対するフィードバックの方法	最終試験の解説を最終講義で行ったうえで、総括、まとめを行う。
実務経験を活かした教育内容	神奈川県衛生研究所での勤務経験を生かして、より実践的な公衆衛生学の講義を展開したい。

回数（担当）	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1	ガイダンス 公衆衛生学序論	講義の進め方、評価方法等について 健康について、生活と健康、健康問題の変遷，公衆衛生と医療の歴史、公衆衛生活動、生命倫理―保健医療福祉の倫理	事前：関連部分をテキスト等で予習する（2 時間）。事後：テキストの課題で復習する（2 時間）。
2	保健統計	健康の測定と健康指標、人口統計、その他の統計	事前：関連部分をテキスト等で予習する（2 時間）。事後：テキストの課題で復習する（2 時間）。
3	疫学	疫学とは、疫学調査の手順と留意事項、疾病の分類、疾病量の把握、疫学の方法	事前：関連部分をテキスト等で予習する（2 時間）。事後：テキストの課題で復習する（2 時間）。
4	疾病の予防と健康管理	疾病リスクと予防医学、健康管理、健康増進、健康日本 21	事前：関連部分をテキスト等で予習する（2 時間）。事後：テキストの課題で復習する（2 時間）。
5	主な疾病の予防	感染症の予防、循環器系の疾患の予防、糖尿病・脂質異常症・痛風・メタボリックシンドロームの予防、がんの予防、腎疾患の予防、アレルギー疾患の予防、不慮の事故と自殺の防止	事前：関連部分をテキスト等で予習する（2 時間）。事後：テキストの課題で復習する（2 時間）。
6	環境保健	人間の環境、環境の把握とその評価・対策、物理的環境要因、化学的環境要因、生物的環境要因、空気の衛生と大気汚染、水の衛生と水質汚濁、廃棄物、衣食住の衛生、公害と環境問題、環境の管理	事前：関連部分をテキスト等で予習する（2 時間）。事後：テキストの課題で復習する（2 時間）。
7	地域保健と保健行政	地域社会と地域保健、地域保健活動と行政、消費者保健	事前：関連部分をテキスト等で予習する（2 時間）。事後：テキストの課題で復習する（2 時間）。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
8	母子保健	母子保健の水準、母子保健の課題、母子保健活動と行政	事前：関連部分をテキスト等で予習する（2 時間）。事後：テキストの課題で復習する（2 時間）。
9	学校保健	子どもの健康状況、学校保健、学校保健の組織と運営、学校保健管理、歯科保健、学校環境管理、学校保健教育	事前：関連部分をテキスト等で予習する（2 時間）。事後：テキストの課題で復習する（2 時間）。
10	産業保健	働く人々の健康、労働災害・事故、職業病、職場における健康診断と健康増進、勤労者の労働時間と余暇、職場復帰	事前：関連部分をテキスト等で予習する（2 時間）。事後：テキストの課題で復習する（2 時間）。
11	精神保健	精神保健と心の働きの理解、精神の健康とは、精神障害の分類と疫学、主な精神疾患と精神保健の課題、精神保健福祉活動	事前：関連部分をテキスト等で予習する（2 時間）。事後：テキストの課題で復習する（2 時間）。
12	国際保健医療	国際保健、人種と民族と国、相手国の情報入手と調査法、開発途上国の健康問題とその対策、日本の保健医療の国際協力、国際機関を通じた協力、国際保健医療の展望	事前：関連部分をテキスト等で予習する（2 時間）。事後：テキストの課題で復習する（2 時間）。
13	保健福祉医療の制度と法規	保健医療行政の概要と基礎知識、保健制度の仕組み、医療制度の仕組み、保健医療行政に関するその他の事項、医療保障・年金の仕組み、社会福祉の仕組みと障害者福祉	事前：関連部分をテキスト等で予習する（2 時間）。事後：テキストの課題で復習する（2 時間）。
14	公衆衛生学の総括（1）	公衆衛生学の総括 最終試験	事前：テキスト等で重要項目を中心に復習する（2 時間）。事後：最終試験の内容を中心に理解が不十分な箇所を再度、復習する（2 時間）。
15	公衆衛生学の総括（2）	最終試験の解説とまとめ	事前：テキストを用いて重要項目を中心に確認する（2 時間）。事後：配布資料で復習する（2 時間）。

授業科目	公衆衛生学実習 Public Health Practicum	担当教員	濱岡　直裕、板垣　康治
対象学科・年次・学期	栄養学科・2 年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	実習	単位数	1 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
		◎		○			○	

授業目的	公衆衛生学で学修したことを基礎として、公衆衛生全般についての理解を深める。科学的根拠に基づいた健康情報の収集や提示方法について実習する。実際に行われている事業等を通して公衆衛生行政を理解する。さらに、具体的な生活環境項目等を測定し、日常生活との関連、健康阻害要因となるものとの関連について、データの解析を行う。科学的根拠にもとづいて説明することができる能力を身につける。
到達目標	1. 公衆衛生において健康増進、疾病予防を推進する際に必要とされる法規・施策について説明できる。 2. 公衆衛生における統計データの扱い方について説明できる。 3. データを解析し、科学的に説明することができる。
関連科目	公衆衛生学、健康管理概論
テキスト	大木秀一著「基本からわかる看護疫学入門（第 3 版）」（医歯薬出版） このほか適宜資料配布する（前期の公衆衛生学で使用したテキストも活用する）
参考書	

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準・観点
	試験		レポート、小テスト、提出物、授業中の取り組み姿勢（授業への集中度、積極性、参加状況、授業中の受講態度）などにより目標の到達状況を評価する。
	レポート	20	
	小テスト	30	
	提出物	30	
	その他	20	

履修上の留意事項	実習にあたっては予習・復習を 1 時間程度行うこと
課題に対するフィードバックの方法	実験レポートはコメントを付け返却する。
実務経験を活かした教育内容	

回数（担当）	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1（濱岡）	環境と健康（1）	温熱環境の測定法について（実験）	事前に関連する前期科目のテキストと前期の配布資料で予習し、事後に配布資料で復習する。
2（濱岡）	環境と健康（2）	上水道・下水道について（外部見学：札幌市水道および下水道関連施設）	事前に関連する前期科目のテキストと前期の配布資料で予習し、事後に配布資料で復習する。
3（濱岡）	環境と健康（3）	化学成分の試験分析について（特別講師：厚生労働省登録検査機関）	事前に関連する前期科目のテキストと前期の配布資料で予習し、事後に配布資料で復習する。
4（濱岡）	環境と健康（4）	水の硬度について（実験）	事前に関連する前期科目のテキストと前期の配布資料で予習し、事後に配布資料で復習する。
5（濱岡）	環境と健康（5	環境汚染について（特別講師：北海道立総合研究機構エネルギー環境地質研究所）	事前に関連する前期科目のテキストと前期の配布資料で予習し、事後に配布資料で復習する。
6（濱岡）	環境と健康（6）	大気環境の測定について（外部見学：北海道立総合研究機構エネルギー環境地質研究所）	事前に関連する前期科目のテキストと前期の配布資料で予習し、事後に配布資料で復習する。
7（濱岡）	環境と健康（7）	食品工場の環境衛生対策について（外部見学：食品製造企業）	事前に関連する前期科目のテキストと前期の配布資料で予習し、事後に配布資料で復習する。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
8 (濱岡) (板垣)	環境と健康（8）	食物アレルギーの現状について（演習）	事前に関連する前期科目のテキストと前期の配布資料で予習し、事後に配布資料で復習する。
9 (濱岡) (板垣)	環境と健康（9）	食品のアレルゲン試験について（実験）	事前に関連する前期科目のテキストと前期の配布資料で予習し、事後に配布資料で復習する。
10 (濱岡)	公衆衛生問題検討（1）	公衆衛生上の問題について現状と課題をグループでディスカッション（演習）	事前に関連する前期科目のテキストと前期の配布資料で予習し、事後に配布資料で復習する。
11 (濱岡)	公衆衛生問題検討（2）	公衆衛生上の問題について現状と課題をグループでディスカッション（演習）	事前に関連する前期科目のテキストと前期の配布資料で予習し、事後に配布資料で復習する。
12 (濱岡)	公衆衛生問題検討（3）	公衆衛生上の問題について現状と課題をグループでプレゼンテーションとディスカッション（演習）	事前に関連する前期科目のテキストと前期の配布資料で予習し、事後に配布資料で復習する。
13 (濱岡)	疫学（1）	疫学指標について（演習）	事前に関連する前期科目のテキストと前期の配布資料で予習し、事後に配布資料で復習する。
14 (濱岡)	疫学（2）	記述疫学、分析疫学、介入研究について（演習）	事前に関連する前期科目のテキストと前期の配布資料で予習し、事後に配布資料で復習する。
15 (濱岡)	疫学（3）	スクリーニングについて（演習）	事前に関連する前期科目のテキストと前期の配布資料で予習し、事後に配布資料で復習する。

授業科目	形態機能学実習Ⅰ Anatomy and Physiology Practicum	担当教員	金髙　有里
対象学科・年次・学期	栄養学科・2 年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	実習	単位数	1 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	○						

授業目的	形態機能学Ⅰ・Ⅱ で学修した基礎的な知識に基づき、実験・測定や標本観察を通して、各臓器・器官（ 血液、心臓、肺、腎臓、など）の形態、体内での位置および組織構造図と機能について理解する。
到達目標	1. 解剖学と生理学に関する基本的手技を修得している。 2. 測定・観察した事実に基づいて人体の構造と機能について説明できる。
関連科目	形態機能学Ⅰ、形態機能学Ⅱ
テキスト	栄養科学シリーズ NEXT　人体の構造と機能　解剖生理学実習　講談社
参考書	教員の自作テキスト

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準・観点
	試験		取り組み姿勢（10%）、レポート（90%）の結果から総合的 に評価する。
	レポート	80%	
	小テスト		
	提出物	20%	
	その他		

履修上の留意事項	形態機能学Ⅰ・Ⅱおよび形態機能学実習Ⅱと関連付けて学修すること。 機器・標本は貴重なものばかりなので、取り扱いは指示に従って丁寧にすること。
課題に対するフィードバックの方法	提出物には、評価をつけて返却する。
実務経験を活かした教育内容	解剖生理学を主とした研究を行っているため、それを実習で生かす。

回数(担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1	オリエンテーション	形態機能学実習の進め方 実験・観察での留意事項 記録・レポート作成について	配付プリントをよく読むこと
2	人体の構造と組成（1）	人体・骨格・臓器模型の観察・記録	配付プリントをよく読むこと
3	人体の構造と組成（2）	解剖標本室の見学・標本観察・記録	配付プリントをよく読むこと
4	人体の構造と組成（3）	身体計測（身長、体重、体組成、ウェスト周囲長、皮厚など）	配付プリントをよく読むこと
5	人体の構造と組成（4）	身体計測データの解析	配付プリントをよく読むこと
6	腎臓・尿（1）	腎臓の全体模型および組織標本の観察・記録	配付プリントをよく読むこと
7	腎臓・尿（2）	尿の量、浸透圧、各種成分の測定	配付プリントをよく読むこと
8	血液（1）	血球標本の観察・記録	配付プリントをよく読むこと
9	血液（1）	血球数計測、ヘモグロビン測定、血球浸透圧抵抗	配付プリントをよく読むこと
10	心臓・血管（1）	心臓・血管の全体模型および組織標本の観察・記録	配付プリントをよく読むこと
11	心臓・血管（2）	心音、心電図、血圧測定	配付プリントをよく読むこと
12	呼吸（1）	肺・気管の全体模型および組織標本の観察・記録	配付プリントをよく読むこと
13	呼吸（2）	呼吸数、呼吸機能の測定	配付プリントをよく読むこと
14	呼吸（3）	呼吸機能のデータ解析	配付プリントをよく読むこと
15	まとめ	全体の学びのまとめと発表	プリントを復習すること

授業科目	形態機能学実習 II Anatomy and Physiology Practicum II	担当教員	金高　有里
対象学科・年次・学期	栄養学科・2 年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	実習	単位数	1 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	○						

授業目的	形態機能学 II で学修した基礎的な知識に基づき、実験・測定や標本観察を通して、各臓器・器官(消化管、肝臓、 膵臓、脂肪組織、骨、骨格筋、中枢および末梢神経、感覚器、内分泌腺など）の形態、体内での位置および組 織構造図と機能について理解する。これらと形態機能学実習 I で学修した知識・手技を組み合わせて、食事や 運動習慣の介入効果を総合的に検証する。
到達目標	1. 解剖学と生理学に関する基本的手技を修得している。 2. 測定・観察した事実に基づいて人体の構造と機能について説明できる。 3. 各種機能の評価法とその活用について説明できる。
関連科目	形態機能学 I 、形態機能学 II、形態機能学実習 1
テキスト	栄養科学シリーズ NEXT　人体の構造と機能　解剖生理学実習　講談社
参考書	教員の自作テキスト

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準・観点
	試験		取り組み姿勢（10%）、レポート（90%）の結果から総合的 に評価する。
	レポート	90%	
	小テスト		
	提出物		
	その他	10%	

履修上の留意事項	形態機能学 I ・ II 及び形態機能学実習 I と関連付けて学修すること。 機器・標本は貴重なものばかりなので、取り扱いは指示に従って丁寧にすること。
課題に対するフィードバックの方法	提出物には、評価をつけて返却する。
実務経験を活かした教育内容	解剖生理学を主とした研究を行っているため、それを実習で生かす。

回数(担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1	消化吸収（1）	消化管の組織標本観察	配付プリントをよく読むこと
2	消化吸収（2）	アミラーゼの機能測定	配付プリントをよく読むこと
3	栄養素代謝（1）	肝臓、膵臓、脂肪組織の標本観察・記録	配付プリントをよく読むこと
4	栄養素代謝（2）	血糖測定、経口糖負荷試験	配付プリントをよく読むこと
5	栄養素代謝（3）	血糖測定、経口糖負荷試験のデータ解析	配付プリントをよく読むこと
6	エネルギー代謝・体温（1）	間接熱量計（呼気分析)、運動負荷	配付プリントをよく読むこと
7	エネルギー代謝・体温（2）	体温と皮膚温測定、寒冷刺激	配付プリントをよく読むこと
8	エネルギー代謝・体温（3）	汗腺観察、温熱刺激、発汗試験	配付プリントをよく読むこと
9	感覚（1）	皮膚感覚（触覚、痛覚、温覚、冷覚）試験	配付プリントをよく読むこと
10	感覚（2）	神経組織観察	配付プリントをよく読むこと
11	味覚（1）	味覚の基礎	配付プリントをよく読むこと
12	味覚（2）	味覚の閾値	配付プリントをよく読むこと

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
13	神経（1）	反射・平衡感覚	配付プリントをよく読むこと
14	発表	全体のまとめ	配付プリントをよく読むこと
15	まとめ	全体のまとめ	配付プリントをよく読むこと

授業科目	病理学 Pathology	担当教員	家子　正裕
対象学科・年次・学期	栄養学科・2 年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
		○		◎				

授業目的	病理学は病気になった原因や、病気になった患者の身体に生じている変化について理解し、病変の名称やその原因の発生プロセス、さらに各臓器における代表的な病変・病気について学修する学問である。本科目は、管理栄養士としての職務を遂行するための病理学的基礎力を身に付けることを目的とする。
到達目標	1. 病理学総論（各種臓器に生じる多彩な病変の共通事項）の概要を説明できる。 2. 代表的な病態の発生機序、経時的変化を説明できる。 3. 正常組織との対比や、各種疾患の関連性を説明できる。
関連科目	1 年前期に履修した形態機能学 I 、1 年後期に履修する形態機能学 II と密接に関連する。
テキスト	編/深山正久「はじめの一歩の病理学 第 2 版」（羊土社）【電子テキスト】
参考書	1．渡辺照男編集「カラーで学べる病理学　第 5 版」（ヌーヴェルヒロカワ） 2．小林正伸「なるほどなっとく病理学　病態形成の基本的なしくみ（改訂 2 版）」（南山堂）

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準・観点
	試験	100	定期試験：到達目標に関する定期試験を実施し、学習到達度を評価します。
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	病変の特徴、発症機序などを学ぶためには、正常組織の構造や機能の理解が前提となるため、形態機能学 I 及び II での学習内容を再確認したうえで受講すること。教員が作成した講義資料を中心に講義を行います。予め Web 上に公開された講義資料とテキストの関連部分を必ず予習すると共に、講義資料に添付された課題（復習問題）を自ら解答して事後学習を行うことが必要です。
課題に対するフィードバックの方法	毎回の講義資料に添付された課題（復習問題）については、次回の講義日までに模範解答と解説を Web 上で公開しますので、自分の解答を必ず確認して理解を深めることが必要です。チャットによる質問等についてはいつでも受付けて対応します。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、病理解剖の事例などを講義に織り交ぜながら、臨床上必要な病理学的知識について理解しやすいように授業を行います。

回数（担当）	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1	科目ガイダンス 病理学概論	講義日程、自学自習方法の説明とともに以下の項目についての講義を行う。 ・病理学とは？　・病理診断の役割と各種病理検査の概要 ・病気の種類と発症要因	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2 時間）
2	退行性病変（1）	・変性や代謝障害の原因と経過に伴う形態や機能への影響 ・糖質、脂質、タンパク質の代謝障害と色素変性	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2 時間）
3	退行性病変（2）	・萎縮の種類、萎縮と低形成の違い ・萎縮と肥大の対比 ・壊死とアポトーシスの違い	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2 時間）
4	進行性病変（1）	・分化と増殖の対比 ・肥大の分類 ・過形成の具体例	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2 時間）
5	進行性病変（2）	再生組織と肉芽組織の役割、創傷治癒、化生について理解する。 ・再生　・肉芽組織　・創傷治癒 ・異物処理　・化生の種類	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2 時間）

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	循環障害（1）	・高血圧と低血圧 ・ショックの分類と特徴 ・充血とうっ血の違い ・虚血の病態と代表的疾患	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2 時間）
7	循環障害（2）	・側副循環の原因と合併症 ・出血の種類と特徴 ・血栓症と塞栓症	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2 時間）
8	炎症（1）	・炎症の定義 ・炎症の四（五）大徴候 ・急性炎症の特徴 ・炎症マーカーの意義	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2 時間）
9	炎症（2）	・慢性炎症の発症機序 ・慢性炎症における肉芽組織の役割 ・急性炎症と慢性炎症の対比 ・特異性炎の定義と代表的疾患	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2 時間）
10	免疫（1）	・免疫の歴史 ・免疫学発展の画期的事項とは～その 1 とその 2 ・フローサイトメトリーの発展 ・モノクローナル抗体と CD 分類	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2 時間）
11	免疫（2）	・免疫系を構成する免疫細胞の機能 ・免疫疾患の種類（免疫不全、アレルギー等） ・自己免疫疾患と膠原病 ・移植免疫	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2 時間）
12	腫瘍（1）	・腫瘍の分類 ・良性腫瘍と悪性腫瘍の違い ・癌腫と肉腫の違い ・転移の種類と特徴	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2 時間）
13	腫瘍（2）	・癌の進行度 ・癌原遺伝子と癌遺伝子 ・発癌のしくみ（化学物質、感染因子） ・腫瘍マーカーの種類と意義	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2 時間）
14	先天異常	・遺伝疾患の分類と遺伝様式 ・代表的な先天異常についての要因と発生機序 ・代表的な染色体異常と出生前診断	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2 時間）
15	病理学トピックス 定期試験ガイダンス	・病理学に関連するトピックスや話題 ・管理栄養士国家試験における病理学関連問題の分析 ・定期試験について	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2 時間）

授業科目	生化学 II Biochemistry II	担当教員	津久井　隆行
対象学科・年次・学期	栄養学科・2 年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
		○		◎				

授業目的	アミノ酸、たんぱく質、糖質、脂質の代謝について学修する。さらに、生体調節物質を網羅して理解する。代謝により生成される物質について学修し、個体の恒常性とその調節機構について理解する。生体調節物質として重要なホルモン・活性ペプチドの生理作用、さらに遺伝子工学および免疫システムについて学修する。
到達目標	1. 糖質代謝について概略を説明し、関連する代謝系について説明できる。 2. 脂質代謝について概略を説明し、リポ蛋白質の種類を説明できる。 3. たんぱく質代謝の概略を説明し、終末代謝産物について説明できる。 4. 代表的なアミノ酸代謝の概略と生成物について説明できる。 5. 遺伝情報の概略と遺伝子発現について説明できる。 6. ホルモン・活性ペプチドの生理作用と恒常性について説明できる。 7. 生体防御機構の概略を示し免疫グロブリンの種類について説明できる。
関連科目	生化学 I、生化学実験の他、形態機能学 I・II、病態診療学 I・II、基礎栄養学と関連している。
テキスト	1. 薗田淳「栄養科学イラストレイテッド 生化学 第 3 版」（羊土社） 2. 薗田淳「栄養科学イラストレイテッド演習版 生化学ノート 第 3 版」（羊土社） 3. 教員が作成する配布資料
参考書	遠藤克己、三輪一智「生化学ガイドブック改定第 3 版」（南江堂）

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準・観点
	試験	70	目標の到達状況を下記の視点から評価し、60 点以上を合格とする。 ①小テスト（30 点） ・講義開始時に当日実施予定の講義内容に関する小テストを実施し、講義に対する事前準備状況を評価する。 ②定期試験（70 点） ・到達目標に関する定期試験を実施し、学修到達度を評価する。
	レポート		
	小テスト	30	
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	1. 授業前にテキスト・配布資料の該当ページに必ず目を通し予習する。 2. 授業後にはテキスト・配布資料の該当ページを必ず復習する。 3. 双方向的授業を推進することから質疑に積極的に参加する。
課題に対するフィードバックの方法	小テストは終了後に解答・解説を実施する。
実務経験を活かした教育内容	

回数(担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1	異化と同化	糖質・脂質・たんぱく質の異化、同化及び排泄の流れについて学修する。	教科書、演習ノートおよび配布資料を用いて復習を行う。（1 時間）
2	糖質の代謝①	外から摂取した糖質の運命と代謝について学修する。	教科書、演習ノートおよび配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。（各 1 時間） 講義開始時に今回の内容に関する予習確認テストを行う。
3	糖質の代謝②	糖新生と血糖値の調節について学修する。	教科書、演習ノートおよび配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。（各 1 時間） 講義開始時に今回の内容に関する予習確認テストを行う。
4	脂質の代謝①	摂取された脂質の運命と代謝について学修する。	教科書、演習ノートおよび配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。（各 1 時間） 講義開始時に今回の内容に関する予習確認テストを行う。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5	脂質の代謝②	脂質の体内輸送や蓄積について学修する。	教科書、演習ノートおよび配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各 1 時間) 講義開始時に今回の内容に関する予習確認テストを行う。
6	タンパク質の分解とアミノ酸代謝①	タンパク質の分解とアミノ酸プールについて学修する。	教科書、演習ノートおよび配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各 1 時間) 講義開始時に今回の内容に関する予習確認テストを行う。
7	タンパク質の分解とアミノ酸代謝②	主たるアミノ酸の代謝と産生される物質について学修する。	教科書、演習ノートおよび配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各 1 時間) 講義開始時に今回の内容に関する予習確認テストを行う。
8	生体エネルギー学	生体エネルギーと関連酵素について学修する。	教科書、演習ノートおよび配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各 1 時間) 講義開始時に今回の内容に関する予習確認テストを行う。
9	中間代謝	糖代謝と脂質代謝、アミノ酸代謝の相互関係について解説する。また、これらの中間代謝について、概要と制御について学修する。	教科書、演習ノートおよび配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各 1 時間) 講義開始時に今回の内容に関する予習確認テストを行う。
10	ヌクレオチドの代謝	核酸の代謝とプリン体・プリミジン体の分解について学修する。	教科書、演習ノートおよび配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各 1 時間) 講義開始時に今回の内容に関する予習確認テストを行う。
11	遺伝子発現とその制御①	遺伝子発現とその調節機構について学修する。	教科書、演習ノートおよび配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各 1 時間) 講義開始時に今回の内容に関する予習確認テストを行う。
12	遺伝子発現とその制御②	遺伝子の発現や調節に影響する要因について学修する。	教科書、演習ノートおよび配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各 1 時間) 講義開始時に今回の内容に関する予習確認テストを行う。
13	個体の調節機構とホメオスタシス①	情報伝達の機序と役割、情報伝達物質と細胞応答について学修する。	教科書、演習ノートおよび配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各 1 時間) 講義開始時に今回の内容に関する予習確認テストを行う。
14	個体の調節機構とホメオスタシス②	ホルモンと生体調節について学修する。	教科書、演習ノートおよび配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各 1 時間) 講義開始時に今回の内容に関する予習確認テストを行う。
15	生体防御機構	免疫機構についての概略と免疫グロブリンについて学修する。	教科書、演習ノートおよび配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各 1 時間) 講義開始時に今回の内容に関する予習確認テストを行う。

授業科目	生化学実験 Biochemical Experiment	担当教員	津久井　隆行
対象学科・年次・学期	栄養学科・2 年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	実験	単位数	1 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
		○		◎			○	

授業目的	生化学Ⅰ・生化学Ⅱで学修したアミノ酸、たんぱく質、糖質、脂質、核酸、酵素の定性法や定量法などについて実習を通して学修する。様々な汎用機器と分析機器の原理と構造を理解し、それらを扱う知識と技術を修得し、実験を通して、生命活動を支える細胞や生体物質の構造および生理機能等についての知識を修得する。また食物として外界から取り込んだ物質の利用、代謝とその調節について理解する。
到達目標	1. ピペット操作や汎用機器の取扱いが正確にできる。 2. 分光光度計の構造・性能を説明でき、物質の定量ができる。 3. pH の定義を説明でき、pH の調節ができる。 4. 酵素活性に及ぼす温度、pH 及び基質濃度の影響について説明できる。 5. 血液中の主要な成分とそれらを定量する方法について説明できる。 6. 電気泳動の原理や種類について説明できる。 7. 遺伝子の性質を知り基本的取扱いができる。
関連科目	生化学Ⅰ・Ⅱを関連科目とする。レポートの作成に基礎化学（1 年次前期）で学んだ濃度計算が関連するため、復習しておくこと。
テキスト	山本克博「はじめてみよう生化学実験」（三共出版） ※その他、教員が作成する配付資料
参考書	薗田淳「栄養科学イラストレイテッド 生化学 第 3 版」（羊土社）

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準・観点
	試験		目標の到達状況を下記の視点から評価し、60 点以上を合格とする。 ①実験レポート（70 点） ・実験毎にレポートを作成し、実験への理解度を評価する。 ②その他（30 点） ・取り組み姿勢を総合的に評価する。
	レポート	70	
	小テスト		
	提出物		
	その他	30	

履修上の留意事項	1. 生化学Ⅰの講義及び他の科目と関連付けて実験内容を理解する。 2. 実験の進行中の不明な点は必ず質問する。 3. 実験レポートの提出期限を守る。
課題に対するフィードバックの方法	レポートは採点し、コメントを付して返却する。
実務経験を活かした教育内容	

回数（担当）	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1	ガイダンス マイクロピペットの操作法	ガイダンス（実験上の注意事項に関する説明） マイクロピペットを使用して正確度と精密度を算出する	事後：実験内容を整理し、レポートを作成する。
2	吸光度の測定法	分光光度計の原理と使用方法について学修する。 吸光度から標準曲線を作成する。	事前：テキストで予習する。 事後：実験内容を整理し、レポートを作成する。
3	pH の測定	pH メーターの使用法について学修する。 緩衝液を調製し、pH メーターの使用法について習熟する。	事前：テキストで予習する。 事後：実験内容を整理し、レポートを作成する。
4	酵素活性測定	アルカリフォスファターゼの活性を測定し、Km 値を算出する。	事前：テキストで予習する。 事後：実験内容を整理し、レポートを作成する。
5	血液成分分析 1	尿酸測定の生化学的・臨床的意義について学修する。 血清中の尿酸を測定する。	事前：テキストで予習する。 事後：実験内容を整理し、レポートを作成する。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	血液成分分析 2	血清カルシウム測定の生化学的・臨床的意義について学修する。 血清カルシウムを測定する。	事前：テキストで予習する。 事後：実験内容を整理し、レポートを作成する。
7	血液成分分析 3	血清総タンパク質・アルブミン測定の生化学的・臨床的意義について学修する。 血清総タンパク質・アルブミン量を測定する。	事前：テキストで予習する。 事後：実験内容を整理し、レポートを作成する。
8	血液成分分析 4	セルロースアセテート膜電気泳動 血清タンパク質の電気泳動パターンを作成する。	事前：テキストで予習する。 事後：実験内容を整理し、レポートを作成する。
9	血液成分分析 5	アガロースゲルフィルム電気泳動 リポタンパク質の電気泳動パターンを作成する。	事前：テキストで予習する。 事後：実験内容を整理し、レポートを作成する。
10	血液成分分析 6	血清遊離脂肪酸を測定する。	事前：テキストで予習する。 事後：実験内容を整理し、レポートを作成する。
11	タンパク質の分離と同定	SDS-PAGE タンパク質の電気泳動パターンを作成する。	事前：テキストで予習する。 事後：実験内容を整理し、レポートを作成する。
12	DNA の検出 1	DNA の測定法について学修する。	事前：テキストで予習する。 事後：実験内容を整理し、レポートを作成する。
13	DNA の検出 2	DNA を抽出・精製し、PCR にて増幅する。	事前：テキストで予習する。 事後：実験内容を整理し、レポートを作成する。
14	DNA の検出 3	アガロースゲル電気泳動 DNA の電気泳動パターンを作成する。	事前：テキストで予習する。 事後：実験内容を整理し、レポートを作成する。
15	総括	これまでの実験内容についてまとめる。	事前：テキストで予習する。 事後：実験内容を整理し、レポートを作成する。

授業科目	病態診療学Ⅰ Fundamentals of Clinical Medicine Ⅰ	担当教員	千葉　仁志
対象学科・年次・学期	栄養学科・2 年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
		○		◎				

授業目的	栄養・食生活と関連する疾患の成因・病態生理・症候と診断（ 病態評価 ）、治療法について学修する。それらを人体の構造や機能と関連づけて理解する。前半の講義は総論であり、問診・身体計測・症候・検査・治療の概要を学修する。後半の講義は各論であり、疾患別に診断・治療の概要を学修する。病態診療学Ⅰで扱う疾患は、栄養・代謝疾患、内分泌疾患、動脈硬化性疾患、循環器系疾患、消化管疾患である。それ以外の疾患については 3 年次前期の病態診療学Ⅱで学修する。
到達目標	臨床の現場において管理栄養士として他のメディカルスタッフと連携して、食事の提供や栄養指導を行うための基礎的知識を身につけている。
関連科目	病態診療学Ⅰは臨床系教育の中核をなしており、3 年次前期に履修する病態診療学Ⅱは本科目の続編である。本科目の基礎となる科目は、1 年次前期の形態機能学Ⅰ、1 年次後期の形態機能学Ⅱ・生化学Ⅰ・基礎栄養学、2 年次前期の生化学Ⅱである。本科目が基礎の重要部分を構成する科目として、2 年次後期～ 4 年次前期の臨床栄養学Ⅰ～Ⅳ、4 年次前期の総合演習Ⅱ、4 年次通期の管理栄養士総合演習がある。
テキスト	田中　明編、栄養科学イラストレイテッド「臨床医学　疾病の成り立ち　第 3 版」、羊土社。 毎回の授業で配布するレジュメは、教科書を簡明に要約し、必要な追加を行っているので、学習の中心に置くべきものである。定期試験対策は、レジュメを中心に行うと効率的である。
参考書	詳細な参考書として、「看護のための臨床病態学・第 4 版」（浅野　嘉延、吉山　直樹、南山堂）。 国家試験に向けての学習の補助となるものとして、「レビューブック管理栄養士」（メディックメディア）がある。

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準・観点
	試験	70%	期末試験：到達目標に関する期末試験を実施し、学習到達度を評価する。学期の初めに配布する定期試験の練習問題・正解を、レジュメ・教科書を参考にしながら疑問点がなくなるまで学習し、定期試験に臨むこと。 小テスト：毎回の授業終了前に、当日の授業内容に関する小テストを行う。各回、60%以上を正解した場合に合格点を与える。 期末試験と小テストの得点合計が 60%以上の場合に合格とする。
	レポート		
	小テスト	30%	
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	教員がパワーポイントで作成した講義資料（レジュメ）に基づいて講義を行う。講義前にはレジュメを一読し、要点を把握して授業に参加すること。毎回の授業で実施する小テストに合格するには、授業に注意を絶やさず、授業時間内に重要事項を記憶する姿勢が求められる。小テストでは FORMS を使用するので、送受信ができるように通信機器（PC、タブレット、スマートフォン）を準備して授業に参加すること。
課題に対するフィードバックの方法	毎回の授業終了前に実施する小テストは FORMS を利用するので、解答の送信後に正解と採点結果が直ちに返送される。間違った箇所をレジュメと教科書・参考書で確認し、理解と正しい情報の確実な記憶に務めること。それが定期試験の合格につながる。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、医師として重要と判断する事項や理解が難しい事項については特に丁寧に授業を行い、図解なども活用して学生が正しく理解することを助けます。

回数（担当）	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1	ガイダンス・診断のための身体診察と検査（1）	病態診療学Ⅰについて、問診と診察	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
2	診断のための身体診察と検査（2）	全身状態の測定と全身症候	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
3	診断のための身体診察と検査（3）	その他の症候と病態	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
4	診断のための身体診察と検査（4）	臨床検査の種類と特性、基準値の求め方	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)

回数(担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5	診断のための身体診察と検査（5）	生化学検査	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
6	診断のための身体診察と検査（6）	一般検査（尿・便)、血液学的検査、免疫検査、腫瘍マーカー	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
7	診断のための身体診察と検査（7）	微生物検査、生理検査、画像検査、病理検査	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
8	疾患治療の概要	対症療法と原因療法、EBM、治療計画・実施・評価、様々な治療方法	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
9	疾患別の病態と治療の概要（1）	栄養障害、糖尿病	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
10	疾患別の病態と治療の概要（2）	脂質異常症、肥満・メタボリックシンドローム、高尿酸血症・痛風	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
11	疾患別の病態と治療の概要（3）	内分泌疾患（1）	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
12	疾患別の病態と治療の概要（4）	内分泌疾患（2）	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
13	疾患別の病態と治療の概要（5）	動脈硬化、虚血性心疾患	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
14	疾患別の病態と治療の概要（6）	高血圧、不整脈、血管疾患	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
15	疾患別の病態と治療の概要（7）	消化管疾患、定期試験について	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)

授業科目	食品科学Ⅲ Food Science Ⅲ	担当教員	板垣 康治
対象学科・年次・学期	栄養学科・2 年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	2 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
		○	○	◎				○

授業目的	調理・加工、保存中の食品成分の変化について、起きる条件や機構を理解し、加工、保存の具体的方法に関わる知識の修得を図る。関連して食品の包装、規格、表示について学修し、管理栄養士に求められる適切な食品の管理選択能力、それを基礎とした食教育の実践力を身につける。
到達目標	1. 調理・加工、保存中の食品成分変化について説明できる。 2. 栄養に関する知識、表示の見方について説明できる。 3. 食品の情報を適切に判断し、正しい食品の選択方法について論理的に説明できる。
関連科目	1 年前期に履修した食品科学Ⅰ、1 年後期に履修した食品科学Ⅱ、及び 4 年前期に履修する食品機能論と関連する。
テキスト	舩津保浩他 編著「食べ物と健康Ⅲ 第 2 版 食品加工と栄養」（三共出版）
参考書	なし

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準・観点
	試験	60	定期試験、授業中の取り組み姿勢（集中度、積極性、出席状況、授業への参加状況、態度）、最終試験などにより目標の到達状況を評価する。最終試験は、第 14 回目の授業において行う。
	レポート		
	最終試験	20	
	提出物		
	その他	20	

履修上の留意事項	各授業の前後に 2 時間の予習・復習を要する。 食品科学Ⅰ、Ⅱの知識を身に付け、発展的な科目として学修する。
課題に対するフィードバックの方法	最終試験の解説を最終講義で行ったうえで、総括、まとめを行う。
実務経験を活かした教育内容	大手食品メーカーでの勤務経験を生かして、より実践的な授業展開を図りたい。

回数（担当）	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1	食料生産と栄養	食料生産の現状と課題、生産条件と栄養	事前：関連部分をテキスト等で予習する（2 時間）。事後：テキストの課題で復習する（2 時間）。
2	食品加工と栄養	食品加工の意義と目的、食品加工の方法、三次加工食品とその利用	事前：関連部分をテキスト等で予習する（2 時間）。事後：テキストの課題で復習する（2 時間）。
3	加工食品とその利用（1）	穀類、いも類とでんぷん類、砂糖と甘味類、豆類	事前：関連部分をテキスト等で予習する（2 時間）。事後：テキストの課題で復習する（2 時間）。
4	加工食品とその利用（2）	野菜類、果実類、きのこ類、藻類	事前：関連部分をテキスト等で予習する（2 時間）。事後：テキストの課題で復習する（2 時間）。
5	加工食品とその利用（3）	魚介類、肉類、卵類、乳類	事前：関連部分をテキスト等で予習する（2 時間）。事後：テキストの課題で復習する（2 時間）。
6	加工食品とその利用（4）	油脂類、菓子類、し好飲料、調味料と香辛料	事前：関連部分をテキスト等で予習する（2 時間）。事後：テキストの課題で復習する（2 時間）。
7	食品流通・保存と栄養	食品流通の概略、食品保存の方法	事前：関連部分をテキスト等で予習する（2 時間）。事後：テキストの課題で復習する（2 時間）。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
8	加工および保存中の成分変化（1）	脂質の変化、たんぱく質の変化、糖質の変化	事前：関連部分をテキスト等で予習する（2 時間）。事後：テキストの課題で復習する（2 時間）。
9	加工および保存中の成分変化（2）	ビタミンの変化、保存条件による食品成分変化	事前：関連部分をテキスト等で予習する（2 時間）。事後：テキストの課題で復習する（2 時間）。
10	器具と容器包装（1）	容器の材料の形態と安全基準、包装による品質変化	事前：関連部分をテキスト等で予習する（2 時間）。事後：テキストの課題で復習する（2 時間）。
11	器具と容器包装（2）	素材による環境汚染、包装リサイクル	事前：関連部分をテキスト等で予習する（2 時間）。事後：テキストの課題で復習する（2 時間）。
12	食品の表示（1）	食品表示と法律、食品の国内規格と国際規格、各種表示の概要	事前：関連部分をテキスト等で予習する（2 時間）。事後：テキストの課題で復習する（2 時間）。
13	食品の表示（2）	食品表示の課題、表示の監視	事前：関連部分をテキスト等で予習する（2 時間）。事後：テキストの課題で復習する（2 時間）。
14	食品科学Ⅲの総括（1）	食品科学Ⅲの総括 最終試験	事前：テキスト等で重要項目を中心に復習する（2 時間）。事後：最終試験の内容を中心に理解が不十分な箇所を再度、復習する（2 時間）。
15	食品科学Ⅲの総括（2）	最終試験の総括とまとめ	事前：テキストを用いて重要項目を中心に確認する（2 時間）。事後：配布資料で復習する（2 時間）。

授業科目	食品衛生学 Food Hygiene and Safety	担当教員	濱岡　直裕
対象学科・年次・学期	栄養学科・2 年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	○		◎			○	○

授業目的	食品に起因する健康被害の原因と予防対策について理解する。食中毒の原因物質と発生状況、食中毒の定義、分類、感染症、食品の汚染、食品添加物のメリット・デメリットなどの知識を修得し、さらに食品衛生管理 HACCP の概念、食品工場、家庭における衛生管理、食品衛生行政と関連法規について理解する。
到達目標	1. 食品に含まれる可能性がある健康障害要因（ リスク ）とその対応策について理解している。 2. 食品衛生行政の概要とその役割を理解している。 3. 食品の安全性問題を理解するとともに衛生管理の仕組みについて理解している。
関連科目	微生物学、食品衛生学実験に強く関連する。
テキスト	「ステップアップ栄養・健康科学　食品衛生学」中島肇・桑原祥浩・池内義弘 編（化学同人）
参考書	「イラスト食品の安全性」小塚諭編（東京教学社）

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準・観点
	試験	70	試験、小テスト、授業中の取り組み姿勢（授業への集中度、積極性、参加状況、授業中の受講態度）などにより目標の到達状況を評価する。
	レポート		
	小テスト	20	
	提出物		
	その他	10	

履修上の留意事項	各授業の前後に各 1 時間の予習・復習を必要とする。
課題に対するフィードバックの方法	小テストの出題は授業の中で解説する。
実務経験を活かした教育内容	

回数（担当）	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1	食品衛生概論	食品衛生の概要、食品衛生法と食品安全基本法	事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する（各 1 時間程度）。
2	食品と微生物	食品と微生物	事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する（各 1 時間程度）。
3	食品の変質（1）	食品の変質とその防止	事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する（各 1 時間程度）。
4	食品の変質（2）	食品の酸敗とその防止	事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する（各 1 時間程度）。
5	食中毒（1）	食中毒の定義と概要、食中毒細菌	事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する（各 1 時間程度）。
6	食中毒（2）	ウイルス、自然毒	事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する（各 1 時間程度）。
7	食中毒（3）	寄生虫とその疾患、衛生動物	事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する（各 1 時間程度）。
8	食品汚染（1）	有害金属、動物用医薬品	事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する（各 1 時間程度）。

回数(担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
9	食品汚染（2）	農薬、その他の有害物質	事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する（各 1 時間程度）。
10	小テスト、器具・容器包装	小まとめ、小テスト、器具・容器包装の概要、各製品別の概要	事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する（各 1 時間程度）。
11	食品添加物（1）	食品添加物の概念、安全性評価	事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する（各 1 時間程度）。
12	食品添加物（2）	主な添加物の種類と特徴	事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する（各 1 時間程度）。
13	食品衛生対策（1）	食品保健行政、食品の安全性問題	事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する（各 1 時間程度）。
14	食品衛生対策（2）	HACCP システムによる衛生管理	事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する（各 1 時間程度）。
15	食品衛生学の展望	最近の食品衛生に関する話題、総括	事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する（各 1 時間程度）。

授業科目	食品衛生学実験 Food Hygiene and Safety Practicum	担当教員	濱岡　直裕
対象学科・年次・学期	栄養学科・2 年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	実験	単位数	1 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	○		◎			○	○

授業目的	食品衛生学にもとづいて、食品衛生を行うために必要な技術や技能を修得する。食品の変質・腐敗・酸敗の判定法、身の回りの環境などの測定法を修得する。また、細菌検査等の実験結果から、食品衛生法や他の法律に規定された基準などにもとづいた汚染の状況を判定する方法を修得する。安全管理対策について、実験を通して学修する。管理栄養士として食事を提供する場面における品質管理や衛生問題に対応する能力を身につける。
到達目標	1. 食品衛生実験の基本操作を身につけている。 2. 食品の衛生管理法について説明できる。 3. 各種検査法の原理や特徴について説明できる。 4. 食品の安全管理対策について説明できる。
関連科目	微生物学実験、微生物学、食品衛生学に強く関連する。
テキスト	杉山章・岸本満・和泉秀彦編「食品衛生学実験 - 安全を支える衛生検査のポイント -」（みらい） 微生物学実験と同じテキストを用いるほか、適宜、資料を配付する
参考書	

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準・観点
	試験		レポート、提出物、授業中の取り組み姿勢（授業への集中度、積極性、参加状況、授業中の受講態度）などにより目標の到達状況を評価する。
	レポート	40	
	小テスト		
	提出物	20	
	その他	40	

履修上の留意事項	実験にあたっては予習・復習を 1 時間程度行うこと
課題に対するフィードバックの方法	実験レポートはコメントを付け返却する。
実務経験を活かした教育内容	

回数(担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1	衛生状態（1）	手指の細菌検査、グローブ法	テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。
2	衛生状態（2）	環境の細菌検査、拭き取り法	テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。
3	衛生状態（3）	環境の清浄度検査、ATP 法	テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。
4	抗菌性	抗菌性評価	テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。
5	食中毒細菌（1）	黄色ブドウ球菌の検出	テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。
6	食中毒細菌（2）	黄色ブドウ球菌の特性試験	テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。
7	食中毒細菌（3）	黄色ブドウ球菌の同定	テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。
8	食品の腐敗変敗(1)	魚肉の揮発性塩基性窒素 VBN の測定	テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。
9	食品の腐敗変敗(2)	ヒスタミンの検査	テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。
10	食品の腐敗変敗(3)	油脂の酸価・過酸化物価の測定	テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
11	水道水	水道水の一般生菌数・大腸菌の検査、残留塩素濃度測定	テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。
12	食品添加物(1)	着色料の検査	テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。
13	食品添加物(2)	発色剤の検査	テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。
14	全体のまとめ	プレゼンテーション	テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。
15	食品衛生監視の概要	食品衛生監視員の業務について（北海道庁食品衛生課）	配布資料で学習内容を整理する。

授業科目	基礎栄養学実験 Basic Nutrition Experiment	担当教員	松川　典子
対象学科・年次・学期	栄養学科・2 年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	実験	単位数	1 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				◎				

授業目的	基礎栄養学で学んだ知識にもとづき、栄養学の基礎となる消化・吸収、栄養素の体内動態や代謝、エネルギー代謝の理解を目的として実験を行う。初めに、実験に用いられる機器とその原理を修得する。ビタミン、ミネラルの体内動向、消化酵素、糖質や脂質の体内動向について自分自身、または動物実験を通して測定する。個人の栄養状態把握に必要な装置や方法について理解し、測定等の技術を修得する。
到達目標	1. 基本的な実験操作を行うことができる。 2. 栄養素を定性、定量することで各栄養素の消化及び代謝機構を説明できる。
関連科目	基礎栄養学、生化学Ⅰ・Ⅱ
テキスト	川端輝江著「基礎栄養学　栄養素のはたらきを理解するために」（アイ・ケイコーポレーション）
参考書	奥恒之、柴田克己編「基礎栄養学」（南江堂）

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準・観点
	試験		実験毎のレポート（80%）とその他（20%）から目標の到達状況を評価する。 その他：第 15 回に実施する発表内容
	レポート	80	
	小テスト		
	提出物		
	その他	20	

履修上の留意事項	基礎栄養学等関連科目を復習してから臨むこと。 レポート作成には、基礎栄養学のテキストで実験内容に該当する箇所の復習を含め 2 時間程度を要する。
課題に対するフィードバックの方法	レポートは、添削し返却する。
実務経験を活かした教育内容	食品分析、動物実験の実務経験を活かし、食品一般成分や組織成分の分析法を教授する。

回数（担当）	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1	ガイダンス	実験オリエンテーション、器具類の名称及び使用法、試薬の調製法	事前：シラバスを確認する。 事後：実施内容を復習する。
2	糖質の消化	糖類の消化実験（*in vitro*）	事前：テキストで予習する。 事後：配布プリントとテキストを用い、実験内容を整理し、レポートを作成する。
3	糖質の代謝①	血糖値の測定	事前：テキストで予習する。 事後：配布プリントとテキストを用い、実験内容を整理し、レポートを作成する。
4	脂質の代謝①	血漿中トリグリセリドの定量	事前：テキストで予習する。 事後：配布プリントとテキストを用い、実験内容を整理し、レポートを作成する。
5	脂質の代謝②	肝臓総脂質の定量	事前：テキストで予習する。 事後：配布プリントとテキストを用い、実験内容を整理し、レポートを作成する。
6	たんぱく質の代謝①	血漿たんぱくの定量	事前：テキストで予習する。 事後：配布プリントとテキストを用い、実験内容を整理し、レポートを作成する。
7	たんぱく質の代謝②	肝臓たんぱくの定量	事前：テキストで予習する。 事後：配布プリントとテキストを用い、実験内容を整理し、レポートを作成する。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
8	糖質の代謝③	肝臓、筋肉グリコーゲンの定量	事前：テキストで予習する。 事後：配布プリントとテキストを用い、実験内容を整理し、レポートを作成する。
9	糖質の代謝④	肝臓グルコース-6-ホスファターゼの測定	事前：テキストで予習する。 事後：配布プリントとテキストを用い、実験内容を整理し、レポートを作成する。
10	発表資料の作成	発表時間に収まる資料、原稿作成	事前：これまでに実施した実験内容を復習する。 事後：成果発表に必要な資料、原稿を作成する。
11	糖質の消化②	小腸粘膜酵素活性の測定①	事前：テキストで予習する。 事後：配布プリントとテキストを用い、実験内容を整理し、レポートを作成する。
12	糖質の消化③	小腸粘膜酵素活性の測定②	事前：テキストで予習する。 事後：配布プリントとテキストを用い、実験内容を整理し、レポートを作成する。
13	ビタミンの定量	尿中ビタミンCの測定	事前：テキストで予習する。 事後：配布プリントとテキストを用い、実験内容を整理し、レポートを作成する。
14	ミネラルの定量	尿中ナトリウムの測定	事前：テキストで予習する。 事後：配布プリントとテキストを用い、実験内容を整理し、レポートを作成する。
15	まとめ	成果発表	事前：発表資料、原稿を作成しリハーサルを行う。 事後：発表を振り返り、準備から発表に至るまでに注意すべき点を確認する。

授業科目	応用栄養学 I Applied Nutrition I	担当教員	岩部　万衣子
対象学科・年次・学期	栄養学科・2 年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				○	◎	○		

授業目的	健康増進や疾病予防に寄与する栄養素の機能やエネルギー代謝の知識にもとづき、健康への影響に関するリスク管理、栄養状態の評価・判定の基本的な考え方や方法について理解する。さらに、栄養ケア・マネジメントの基礎と食事摂取基準の基本的な考え方や各指標の定義・活用方法について修得する。身体状況や栄養状態に応じた栄養ケアについて学修する。
到達目標	1．栄養ケア・マネジメントの基本的な考え方、方法を説明できる。 2．食事摂取基準の基本的な考え方、各指標についての定義、活用方法を説明できる。 3．身体状況や栄養状態等に基づいた栄養アセスメントのための食事調査について説明できる。 4．対象に適切な調査の方法を説明できる。
関連科目	1 年次の形態機能学、生化学、食品科学、調理学、基礎栄養学を基盤とした科目である。 応用栄養学 II・III、応用栄養学実習と関連する。 栄養教育、公衆栄養学、臨床栄養学の基盤となる科目である。
テキスト	伊藤　貞嘉、佐々木　敏　監修「日本人の食事摂取基準〈2020 年版〉」（第一出版） 栢下　淳、上西　一弘　編「栄養科学イラストレイテッド　応用栄養学　改訂第 2 版」（羊土社）
参考書	佐々木 敏 著「食事摂取基準入門 - そのこころを読む」（同文書院）

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準・観点
	試験	40	授業内容に応じた提出物（30%）、小テスト（30%）、定期試験（40%）の結果を総合して、目標の到達状況を評価する。
	レポート		
	小テスト	30	
	提出物	30	
	その他		

履修上の留意事項	各授業の前後に 1〜2 時間の予習・復習を要する。
課題に対するフィードバックの方法	小テストは採点し、解答・解説を行う。 提出物は添削し返却する。
実務経験を活かした教育内容	

回数（担当）	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1	ガイダンス	応用栄養学とは	教科書、参考資料を事前に確認する。
2	食事摂取基準（1）	食事摂取基準の概要 食事摂取基準の目的、歴史、意義	教科書を中心に 1 時間程度の予習復習を行う。
3	食事摂取基準（2）	食事摂取基準における各指標の定義、策定プロセス 基礎代謝、身体活動レベル、推定エネルギー必要量	教科書を中心に 1 時間程度の予習復習を行う。
4	食事摂取基準（3）	食事摂取基準活用の基礎理論（1）	教科書を中心に 1 時間程度の予習復習を行う。
5	食事摂取基準（4）	食事摂取基準活用の基礎理論（2）	教科書を中心に 1 時間程度の予習復習を行う。
6	食事摂取基準（5）	食事摂取基準活用の各論（1）	教科書を中心に 1 時間程度の予習復習を行う。
7	食事摂取基準（6）	食事摂取基準活用の各論（2）	教科書を中心に 1 時間程度の予習復習を行う。
8	食事摂取基準（7）	食事摂取基準活用の各論（3）	教科書を中心に 1 時間程度の予習復習を行う。
9	食事摂取基準（8）	食事摂取基準活用の各論（4）	教科書を中心に 1 時間程度の予習復習を行う。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
10	食事摂取基準（9）	食事摂取基準活用の各論（5）	教科書を中心に１時間程度の予習復習を行う。
11	栄養ケア・マネジメント計画（1）	栄養ケア・マネジメント計画 短期・中期・長期の栄養ケア・マネジメント目標 目標にそった栄養ケア・マネジメント計画について	教科書を中心に１時間程度の予習復習を行う。
12	栄養ケア・マネジメント計画（2）	栄養ケア・マネジメント計画におけるモニタリング 計画実施後の経過のモニタリング、必要な計画の見直し	教科書を中心に１時間程度の予習復習を行う。
13	栄養アセスメント指標	栄養アセスメント指標 主観的アセスメント、客観的アセスメントの理解と活用	教科書を中心に１時間程度の予習復習を行う。
14	食事調査	食事調査データの活用、食事調査法について	教科書を中心に１時間程度の予習復習を行う。
15	食行動・食環境 まとめ	食事の摂取について 食行動、食環境について 環境と食習慣の関連、食行動と食環境の評価 全体のまとめ	教科書を中心に１時間程度の予習復習を行う。

授業科目	応用栄養学 II Applied Nutrition II	担当教員	岩部　万衣子　金高 有里
対象学科・年次・学期	栄養学科・2 年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				○	◎	○		

授業目的	ライフステージごとに身体状況や栄養状態に応じた栄養ケアが必要である。成長・発達・加齢の概念について学修し、成長、発達・加齢に伴う身体的・精神的変化と栄養について理解する。具体的には、妊娠期・授乳期、新生児期、乳児期、成長期（幼児期、学童期、思春期）における生理学的な特徴を理解し、各ライフステージの栄養アセスメントと栄養ケアについて理解する。栄養状況は生活環境や食生活からも影響を受けているので、それらの要因も考慮した栄養管理の基本について理解する。
到達目標	1. ライフステージごとの身体特性、栄養状況を説明できる。 2. 各ライフステージにおける栄養アセスメントおよび栄養ケアを考えることができる。
関連科目	１年次の形態機能学、生化学、食品科学、調理学、基礎栄養学を基盤とした科目である。 応用栄養学 I ・ III、応用栄養学実習と関連する。 栄養教育、公衆栄養学、臨床栄養学の基盤となる科目である。
テキスト	伊藤 貞嘉、佐々木 敏 監修「日本人の食事摂取基準〈2020 年版〉」（第一出版） 栢下 淳、上西 一弘 編「栄養化学イラストレイテッド　応用栄養学　改訂第 2 版」（羊土社）
参考書	佐々木 敏 著「食事摂取基準入門 - そのこころを読む」（同文書院）

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準・観点
	試験	80	授業内容に応じたレポートや定期試験の結果を総合して、目標の到達状況を評価する。 岩部 50%：定期試験 40%、レポート 10% 金高 50%：定期試験 40%、レポート 10%
	レポート	20	
	小テスト		
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	各授業の前後に 1〜2 時間の予習・復習を要する。
課題に対するフィードバックの方法	レポートは添削し返却する。
実務経験を活かした教育内容	

回数（担当）	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1（岩部）	発育・発達と栄養（1）	成長・発達・加齢の概念、加齢と形態の変化、食機能の変化	教科書を中心に 1 時間程度の予習復習を行う。
2（岩部）	発育・発達と栄養（2）	年齢別食事摂取基準と食品構成	教科書を中心に 1 時間程度の予習復習を行う。
3（金高）	妊娠期の栄養（1）	女性、妊娠期の栄養の特徴	教科書を中心に 1 時間程度の予習復習を行う。
4（金高）	妊娠期の栄養（2）	妊娠期の疾患と栄養ケア・マネジメント	教科書を中心に 1 時間程度の予習復習を行う。
5（金高）	授乳期の栄養（1）	授乳期の特性、栄養の特徴	教科書を中心に 1 時間程度の予習復習を行う。
6（金高）	授乳期の栄養（2）	授乳期の疾患と栄養ケア・マネジメント	教科書を中心に 1 時間程度の予習復習を行う。
7（金高）	新生児・乳児期の栄養（1）	新生児・乳児期の特性、栄養と代謝	教科書を中心に 1 時間程度の予習復習を行う。
8（金高）	新生児・乳児期の栄養（2）	新生児・乳児期の栄養アセスメントと栄養ケア	教科書を中心に 1 時間程度の予習復習を行う。
9（金高）	成長・発達期（総論）	成長期の食事摂取基準と献立	教科書を中心に 1 時間程度の予習復習を行う。
10（岩部）	成長・発達期（幼児期）（1）	幼児期の特性、栄養の特徴、集団給食	教科書を中心に 1 時間程度の予習復習を行う。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
11 (岩部)	成長・発達期（幼児期）(2)	幼児期の栄養アセスメントと栄養ケア	教科書を中心に１時間程度の予習復習を行う。
12 (岩部)	成長・発達期（学童期）(1)	学童期の特性、栄養の特徴、学校給食	教科書を中心に１時間程度の予習復習を行う。
13 (岩部)	成長・発達期（学童期）(2)	学童期の栄養アセスメントと栄養ケア	教科書を中心に１時間程度の予習復習を行う。
14 (岩部)	成長・発達期（思春期）	思春期の特性、生活習慣の特徴 思春期の栄養アセスメントと栄養ケア	教科書を中心に１時間程度の予習復習を行う。
15 (岩部)	まとめ	全体のまとめと復習	教科書を中心に１時間程度の予習復習を行う。

授業科目	スポーツ栄養学総論 Introduction to Sports Nutrition	担当教員	千葉　昌樹、松本　恵
対象学科・年次・学期	栄養学科・2 年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				○	◎			

授業目的	スポーツ栄養とは何か、基本的な考え方と実際にスポーツ選手へのサポート方法について学ぶ
到達目標	スポーツ実施者の実態や栄養サポートの実際について理解する。 スポーツ栄養コースの概要とスポーツ栄養の基本を理解する。
関連科目	スポーツ栄養学
テキスト	特になし
参考書	

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準・観点
	試験		到達目標の達成度をレポートで評価する （千葉 40%、松本 60%）
	レポート	100	
	小テスト		
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	具体的事例を示しながら学修を進めるため、スポーツ栄養全体のイメージ像を掴むこと。
課題に対するフィードバックの方法	提出物に関しては、観点のよさ、補足的意見などを記載して学生に返却する。
実務経験を活かした教育内容	実務経験の立場から、運動・スポーツなど身体活動量が多い人に対して、これから学ぶ栄養学的理論・知識・スキルを基本としたスポーツ栄養学とは何かについて学びます。

回数（担当）	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1（千葉）	スポーツ栄養について	授業およびスポーツ栄養コースガイダンス。	事前にシラバスを読んでおく。配付資料を確認し、内容を復習する（1 時間）。
2（千葉）	スポーツ栄養の基礎 I	スポーツ栄養の基本である栄養素摂取とパフォーマンスの関係について学ぶ	授業前に前回の学習内容を確認する。配付資料の内容を復習する（1 時間）。
3（千葉）	スポーツ栄養の基礎 II	スポーツ栄養の基本であるケガや病気に必要な栄養学的サポートを学ぶ。	授業前に前回の学習内容を確認する。配付資料の内容を復習する（1 時間）。
4（松本）	特別講師によるスポーツ栄養の実際 I	特別講師からスポーツ栄養の実際を学ぶ。	授業前に前回の学習内容を確認する。配付資料の内容を復習する（1 時間）。
5（松本）	特別講師によるスポーツ栄養の実際 II	特別講師からスポーツ栄養の実際を学ぶ。	授業前に前回の学習内容を確認する。配付資料の内容を復習する（1 時間）
6（松本）	スポーツ選手の栄養サポートの実際 I	栄養サポートの事例を通じてサポートの方法を学ぶ。	業前に前回の学習内容を確認する。配付資料の内容を復習する（1 時間）。
7（松本）	スポーツ選手の栄養サポートの実際 II	栄養サポートの事例を通じてサポートの方法を学ぶ。	業前に前回の学習内容を確認する。配付資料の内容を復習する（1 時間）。
8（松本）	スポーツ選手の栄養サポートの実際 III	栄養サポートの事例を通じてサポートの方法を学ぶ。	業前に前回の学習内容を確認する。配付資料の内容を復習する（1 時間）

授業科目	栄養教育論Ⅰ Nutrition Education Ⅰ	担当教員	百々瀬　いづみ
対象学科・年次・学期	栄養学科・2 年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
			○	◎	○	○		

授業目的	栄養教育の概念、栄養教育の目的・目標について理解する。また、栄養教育のための論理的基礎としての行動科学と栄養教育について理解する。行動科学の理論とモデルについて学修し、行動変容技法についての概念や方法を理解する。さらに、栄養カウンセリング方法や技法を修得する。また、組織・環境づくり、食環境と栄養教育について学修する。
到達目標	1. 栄養教育の意義や特性を理解し健康保持・増進のための栄養教育の重要性について説明できる。 2. 対象者に適した栄養教育を行うための行動科学の論理や技法の知識を身につけている 。 3. 栄養教育と食環境づくりについて、関連法規等をふまえて説明できる。
関連科目	1 年次に学修した専門基礎科目が知識の基盤となるため、復習をしておくこと。 栄養教育論Ⅱ、Ⅲ、栄養教育論実習と関連する
テキスト	池田小夜子、斎藤トシ子、川野因著「サクセス管理栄養士講座　栄養教育論」（第一出版） ※その他、適宜プリントを、配付する。
参考書	必要に応じて、授業内で紹介する。

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準・観点
	試験	70	目標の到達状況を下記の視点から評価する。 定期試験：70% 小テスト：30%（各回で授業を振り返る小テストあり）
	レポート		
	小テスト	30	
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	興味・関心を抱き、目標をもって自ら意欲的に学習すること。 各授業前・後に、予習（テキストを読む）、復習を行うこと。
課題に対するフィードバックの方法	小テストは、翌週返却し、授業時に、解答・解説を行います。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、地域での栄養教育の実際（方法、課題等）を講義に織り交ぜながら、栄養教育の概念や目的、必要な技法等を理解しやすいように授業を行います。

回数（担当）	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1	ガイダンス、栄養教育の概念	「栄養教育論」ガイダンス 栄養教育の定義・目的・目標	テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各 1 時間程)。
2	栄養教育の歴史・社会的背景(1)	栄養教育の誕生と歴史的背景について	テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各 1 時間程)。
3	栄養教育の歴史・社会的背景(2)	栄養教育の誕生と歴史的背景、現代の課題について	テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各 1 時間程)。
4	栄養教育の対象、栄養教育の機会・場（1）	栄養教育の対象とは何か、栄養教育の場とは何か。	テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各 1 時間程)。
5	栄養教育の対象、栄養教育の機会・場（2）	栄養教育の場とは何か。	テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各 1 時間程)。
6	栄養教育のための論理的基礎（1）	行動科学とは何か	テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各 1 時間程)。
7	栄養教育のための論理的基礎（2）	行動科学の理論とモデル(1)	テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各 1 時間程)。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
8	栄養教育のための 論理的基礎（3）	行動科学の理論とモデル(2)	テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各１時間程)。
9	栄養教育のための 論理的基礎（4）	行動科学の理論とモデル(3)	テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各１時間程)。
10	栄養教育のための 論理的基礎（5）	行動科学の理論とモデル(4)	テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各１時間程)。
11	栄養教育のための 論理的基礎（6）	行動科学の理論とモデル(5)	テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各１時間程)。
12	栄養教育のための 論理的基礎（7）	栄養カウンセリング(1)	テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各１時間程)。
13	栄養教育のための 論理的基礎（8）	栄養カウンセリング(2)	テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各１時間程)。
14	栄養教育のための 論理的基礎（9）	食環境づくりとの関連(1)	テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各１時間程)。
15	栄養教育のための 論理的基礎（10）・ 栄養教育論Ⅰのまとめ	食環境づくりとの関連(2) 栄養教育論Ⅰのまとめ	テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各１時間程)。

授業科目	栄養教育論Ⅱ Nutrition Education Ⅱ	担当教員	百々瀬　いづみ
対象学科・年次・学期	栄養学科・2 年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				◎	○	○		

授業目的	・授業の前半では、栄養教育論Ⅰの基礎をふまえて、栄養教育マネジメントについて学修する。健康・食物摂取に影響する要因をアセスメントして優先課題を決定し、栄養教育の目標（学習目標、行動目標、環境目標、結果目標）を設定して栄養教育計画を作成する方法を学習する。栄養教育の評価の設定、適切な教育媒体を用いることやその効果等について、栄養教育マネジメントを行うための知識や技術を修得する。 ・授業の後半では、栄養教育対象者のライフステージに応じた栄養教育の方法のうち、主に高齢者に対する栄養教育について学修する。
到達目標	1.個人や地域（教育対象者）の健康・栄養状態・食環境等をアセスメントし、課題抽出ができる。 2. 対象者に対応した栄養評価、適切な栄養教育法を選択し、栄養教育プログラムを計画・立案・実施する方法が分かる。 3. 栄養教育計画の評価について説明できる。 4. 高齢者への栄養教育の方法について説明できる。
関連科目	栄養教育論Ⅰ、Ⅲ、栄養教育論実習、応用栄養学が関連科目である。
テキスト	栄養教育論Ⅰと同じものを使用する。その他、資料を配付する。
参考書	必要に応じて、授業内で紹介する。ｖｃ

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準・観点
	試験	70	目標の到達状況を下記の視点から評価する。 定期試験：70% 小テスト：30%（各回で授業を振り返る小テストあり）
	レポート		
	小テスト	30	
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	興味・関心を抱き、目標をもって自ら意欲的に学習すること。 各授業前・後に、予習（テキストを読む）、復習を行うこと。
課題に対するフィードバックの方法	小テストは、翌週返却し、授業時に、解答・解説を行います。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、地域での栄養教育の実際（方法、課題等）を講義に織り交ぜながら、栄養教育の概念や目的、必要な技法等を理解しやすいように授業を行います。

回数(担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1	ガイダンス、栄養教育の概念	「栄養教育論Ⅱ」ガイダンス 栄養教育論Ⅰの復習	テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各 1 時間程)。
2	栄養教育マネジメント(1)	栄養教育マネジメントとは何か	テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各 1 時間程)。
3・4	栄養教育のためのアセスメント	栄養教育のためのアセスメントとは何か	テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各 1 時間程)。
5	栄養教育のための計画立案(1)	栄養教育計画立案と目標設定	テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各 1 時間程)。
6・7	栄養教育のための計画立案(2)	栄養教育の方法	テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各 1 時間程)。
8	栄養教育のための計画立案(3)	栄養教育の実施	テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各 1 時間程)。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
9	栄養教育のための 計画立案(4)	栄養教育の評価	テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各 1 時間程)。
10	栄養教育マネジメント (2)	栄養教育マネジメントのまとめ	テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各 1 時間程)。
11	ライフステージに 応じた栄養教育(1)	ライフステージに応じた栄養教育とは 「高齢者」の特性に合わせた栄養教育(1)	テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各 1 時間程)。
12	ライフステージに 応じた栄養教育(2)	「高齢者」の特性に合わせた栄養教育(2)	テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各 1 時間程)。
13	ライフステージに 応じた栄養教育(3)	「認知症高齢者」の栄養教育	テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各 1 時間程)。
14	ライフステージに 応じた栄養教育(4)	「高齢者」に対する栄養教育の実践例	テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各 1 時間程)。
15	ライフステージに 応じた栄養教育(5)	高齢者に対する栄養教育のまとめ	テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各 1 時間程)。

授業科目	食育実践演習 Practical Seminar in Food Education	担当教員	百々瀬いづみ
対象学科・年次・学期	栄養学科・2 年次・通年	選択・必修	選択
授業形態	演習	単位数	1 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○		○	◎		◎		○

授業目的	札幌伝統野菜並びに北海道を代表とする作物の栄養学的特徴、加工特性等を知り、それらを活かした食育を企画し、実際に地域住民を対象に食育を行い、食育の知識、技術を向上させる。
到達目標	1. 札幌伝統野菜や北海道を代表とする作物の栄養学的特徴、加工特性等について説明できる。 2. 大学農場で収穫された作物の特徴を活かしたレシピの考案、提供が出来る。 3. ２を使った食育を企画し、実際に効果的な食育を展開できる。 4. プレゼンテーション技術、コミュニケーション技術が向上する。
関連科目	食育農場演習、調理学、食品科学が関連科目である。
テキスト	無し。適宜、資料を配付する。
参考書	必要に応じて、授業の中で紹介する。

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準・観点
	試験		目標の到達状況を提出物・授業態度により総合的に評価する。 ・提出物（50%）：食育関連資料（企画書・レシピ・講話資料等） ・授業態度（50%）：演習への取り組み姿勢
	レポート		
	小テスト		
	提出物	50	
	その他	50	

履修上の留意事項	履修人数によって食育の実践回数やグループ人数を検討します。
課題に対するフィードバックの方法	授業の中で、適時、助言、指導等を行います。
実務経験を活かした教育内容	地域で食育、栄養教育を行ってきた実務経験を活かして、地域住民にとって効果的な食育を実践できるようにサポートしていきます。

回数(担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1	演習ガイダンス、食育とは 食育Ⅰの準備(1)	授業のガイダンスを行う。食育の概要について説明する。 食育Ⅰの企画を行う。	事前にシラバスを読み、履修上の疑問点を明らかにしておくこと。関連科目の復習をしておくこと(1 時間程)
2・3	食育Ⅰの準備(2)	食育Ⅰの準備（指導媒体作成、調理品の試作等）	事前に食育やその準備に必要な事柄をイメージしておくこと(1 時間程)。
4	食育Ⅰの準備(3)	食育Ⅰのリハーサルの実施	事前にリハーサルに必要な事柄をイメージし、事後には、個人で振り返りをしておくこと(1 時間程)。
5	食育Ⅰの準備(4)	リハーサルを踏まえ、改善等の準備を行う。	事前に食育やその準備に必要な事柄をイメージしておくこと(1 時間程)。
6・7	食育Ⅰの実践	食育Ⅰの実践	事前に食育実践に必要な事柄をイメージし、準備や心構えをしておくこと。事後には、個人で振り返りをしておくこと(1 時間程)。
8	食育Ⅰの振り返り 食育Ⅱの準備(1)	食育Ⅰの評価 食育Ⅱの企画を行う。	事前に食育の企画をイメージしておくこと(1 時間程)。
9・10	食育Ⅱの準備(2)	食育Ⅱの準備（指導媒体作成、調理品の試作等）	事前に食育やその準備に必要な事柄をイメージしておくこと(1 時間程)。
11	食育Ⅱの準備(3)	食育Ⅱのリハーサルの実施	事前にリハーサルに必要な事柄をイメージし、事後には、個人で振り返りをしておくこと(1 時間程)。
12	食育Ⅱの準備(4)	リハーサルを踏まえ、改善等の準備を行う。	事前に食育やその準備に必要な事柄をイメージしておくこと(1 時間程)。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
13・14	食育Ⅱの実践	食育Ⅱの実践	事前に食育実践に必要な事柄をイメージし、準備や心構えをしておくこと。事後には、個人で振り返りをしておくこと(1 時間程)。
15	評価・振り返り	食育Ⅱの評価 食育実践演習の振り返りを行う。	事前に授業の振り返り(自己評価)をしておくこと(1 時間程)

授業科目	臨床栄養学Ⅰ Clinical Nutrition Ⅰ	担当教員	氏家　志乃
対象学科・年次・学期	栄養学科・2 年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○		○	○	◎			

授業目的	臨床栄養管理における管理栄養士の役割、傷病者の療養に対して必要な「栄養の指導」および「栄養ケア」など、臨床栄養学の基本について学修する。
到達目標	1.　臨床における臨床栄養の意義と目的を理解し説明することができる。 2.　臨床における管理栄養士の役割を理解し説明することができる。 3.　医療保険制度・介護保険制度を理解し説明することができる。 4.　入院時食事療養制度を理解し説明することができる。 5.　臨床における栄養ケア・マネジメントの一連の流れについて理解し説明することができる。
関連科目	形態機能学、病態診療学
テキスト	Visual 栄養学テキスト　臨床栄養学Ⅰ総論　（中山書店）
参考書	日本人の食事摂取基準 2020 年度版　（第一出版）

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準・観点
	試験	80	到達目標の達成度を試験、課題で評価する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物	20	
	その他		

履修上の留意事項	各授業の前後に 1 ～ 2 時間の予習・復習を要する。
課題に対するフィードバックの方法	課題は翌週の授業で解説を行う。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者（病院管理栄養士）の立場から、臨床現場での事例などを提示しながら栄養管理の一連の流れや診療報酬や入院時食事療養について理解しやすいように授業を行います。

回数（担当）	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1	ガイダンス	臨床栄養学とは/臨床栄養管理における管理栄養士の役割	事前）シラバスを確認する。 事後）教科書、配布資料の復習
2	医療保険制度	診療報酬と入院時食事療養	事前）教科書の関連個所を読む。 事後）教科書、配布資料の復習
3	介護保険制度	医療・福祉・介護制度と臨床栄養管理、介護保険制度	事前）教科書の関連個所を読む。 事後）教科書、配布資料の復習、課題に取り取り組む。
4	病院における臨床栄養管理	栄養ケア・マネジメントとは。栄養ケア・マネジメントの流れ	事前）教科書の関連個所を読む。 事後）教科書、配布資料の復習
5	栄養ケア・マネジメント（1）	栄養アセスメント―スクリーニング	事前）教科書の関連個所を読む 事後）教科書、配布資料の復習 課題に取り組む。
6	栄養ケア・マネジメント（2）	栄養アセスメント―食事調査・身体計測・生化学検査①	事前）教科書の関連個所を読む 事後）教科書、配布資料の復習
7	栄養ケア・マネジメント（3）	栄養アセスメント―食事調査・身体計測・生化学検査②	事前）教科書の関連個所を読む 事後）教科書、配布資料の復習 課題に取り組む。
8	栄養ケア・マネジメント（4）	栄養ケア計画―必要栄養量の算定	事前）教科書の関連個所を読む 事後）教科書、配布資料の復習 課題に取り組む。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
9	栄養ケア・ マネジメント（5）	栄養ケア計画―栄養投与法:経口栄養(病院で提供される食事)	事前）入院時食事療養の復習、 教科書の関連個所を読む。 事後）教科書、配布資料の復習
10	栄養ケア・ マネジメント（6）	栄養ケア計画―栄養投与法：経口栄養（食形態と摂食嚥下）	事前）入院時食事療養、前回授業を 復習する。 事後）教科書、配布資料の復習
11	栄養ケア・ マネジメント（7）	栄養ケア計画―栄養投与法：経腸栄養・静脈栄養	事前）教科書の関連個所を読む。 事後）教科書、配布資料の復習
12	栄養ケア・ マネジメント（8）	栄養ケア計画―薬と栄養・食物の相互作用	事前）教科書の関連個所を読む。 事後）教科書、配布資料の復習
13	栄養ケア・ マネジメント（9）	栄養ケア計画―臨床栄養教育・チーム医療	事前）診療報酬の復習、 教科書の関連個所を読む。 事後）教科書、配布資料の復習
14	栄養ケア・ マネジメント（10）	診療録への記録法　POMR、経過記録 SOAP	事前）教科書の関連個所を読む 事後）教科書、配布資料の復習 課題に取り組む。
15	まとめ	臨床栄養学Ⅰのまとめ	事前）これまでの授業内容を教科書・配布資料で復習する。 事後）試験準備を行う。

授業科目	給食経営管理論Ⅰ Nutrition and Food Service Management Ⅰ	担当教員	山部　秀子、渡辺　いつみ
対象学科・年次・学期	栄養学科・2 年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	◎			○	○			

授業目的	特定給食施設における給食の意義・役割を理解し、給食施設の利用者の健康や栄養状態の維持・増進・改善、生活の向上を目標とした栄養・食事管理を効率的、効果的に継続して実施していくためのシステムおよびマネジメントについて学修する。
到達目標	1．給食における管理栄養士の役割について説明できる。 2．給食を提供する施設と関連法規について説明できる。 3．給食施設利用者の栄養食事管理サイクルについて説明できる。 4．給食の品質、生産、安全・衛生、施設・設備、人事管理について説明できる。
関連科目	調理学、調理学実習Ⅰ・Ⅱ、給食経営管理論Ⅱ、給食経営管理論実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの他、専門基礎科目および専門科目と関連する。
テキスト	三好恵子他編著「給食経営管理論」（第一出版）、Excel アドイン「栄養プラス」（建帛社） 必要に応じプリントを配布する。
参考書	日本人の食事摂取基準（第一出版）又は厚生労働省 HP からもダウンロード可能 高城孝助編「実践給食マネジメント論」（第一出版） 塚婦美子編著「改訂新版大量調理」（学建書院） 食品成分表（各自が現在所持している成分表で良い） 調理のためのベーシックデータ（女子栄養大学出版部） その他　給食献立集などを参考とする

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準・観点
	試験	80	目標の達成状況を下記の点から評価し 60 点以上を合格とする ①　授業への姿勢（20 点） グループワークにおける事例への考察、取り組みについて成果報告から評価する。レポート、提出物の評価も含む。 ②　定期試験（80 点） 学習到達目標について定期試験を実施、到達度を評価する
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
	その他	20	

履修上の留意事項	事前、事後には教科書や配布されたプリントを読んで予習復習をすること。 また 3 年次に開講される臨地実習（給食経営管理論実習Ⅱ）の先修条件科目の 1 つである。
課題に対するフィードバックの方法	授業内で実施するミニワーク課題の解説等を当日または次回授業の際に行う。 提出課題は、授業内で解説を行う。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、給食経営管理システムについて、事例、取り組んだ内容などをもとに具体例を取り入れ、理解しやすい授業を行う。

回数（担当）	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 （山部）	ガイダンス・給食の概念	ガイダンス 給食経営管理の概念 特定給食施設の意義と役割 給食の種類と特徴 給食の関連法規	教科書で事前学修（2 時間）・講義資料などで事後学習を行う（2 時間）
2 （山部）	給食の運営とマネジメント	給食運営常務の流れ 給食の運営とマネジメント	教科書で事前学修（2 時間）・講義資料などで事後学習を行う（2 時間）
3 （山部）	栄養・食事管理（1）	栄養・食事管理・食事摂取基準 栄養・食事管理システム 食事環境の整備	教科書で事前学修（2 時間）・講義資料などで事後学習を行う（2 時間）
4 （山部）	栄養・食事管理（2）	栄養・食事計画の実際 栄養・食事管理の評価	教科書で事前学修（2 時間）・講義資料などで事後学習を行う（2 時間）

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5 (渡辺)	献立管理	献立計画 献立作成の手順と評価 各種給食施設の献立の特徴と展開	教科書で事前学修（2時間）・講義資料などで事後学習を行う（2時間）
6 (渡辺)	生産管理	給食における生産計画 調理工程計画の実際 大量調理の品質管理	教科書で事前学修（2時間）・講義資料などで事後学習を行う（2時間）
7 (渡辺)	品質管理	給食における品質管理 作業指示による品質管理 品質管理の評価	教科書で事前学修（2時間）・講義資料などで事後学習を行う（2時間）
8 (渡辺)	食材料管理	食材料管理の目的と概要 給食の食材料の分類・流通システム 購入管理・発注・検収・保管・在庫管理・食材料費の評価	教科書で事前学修（2時間）・講義資料などで事後学習を行う（2時間）
9 (渡辺)	安全・衛生管理	安全・衛生管理の目的・関連法規 HACCP・大量調理施設衛生管理マニュアル 安全・衛生のリスク 事故発生時の対処	教科書で事前学修（2時間）・講義資料などで事後学習を行う（2時間）
10 (山部) (渡辺)	施設・設備管理（1）	施設・設備管理の概要・意義・目的 調理室内の機器・器具・ゾーニング（レイアウト） 食器調理用具	教科書で事前学修（2時間）・講義資料などで事後学習を行う（2時間）
11 (山部) (渡辺)	施設・設備管理（2）	施設・設備管理の概要・意義・目的 調理室内の機器・器具・ゾーニング（レイアウト） 食器調理用具	教科書で事前学修（2時間）・講義資料などで事後学習を行う（2時間）
12 (山部) (渡辺)	施設・設備管理（3）	施設・設備管理の概要・意義・目的 調理室内の機器・器具・ゾーニング（レイアウト） 食器調理用具	教科書で事前学修（2時間）・講義資料などで事後学習を行う（2時間）
13 (山部)	原価管理	原価管理の意義・目的 給食の原価管理と評価	教科書で事前学修（2時間）・講義資料などで事後学習を行う（2時間）
14 (山部)	事務・情報管理	事務・情報管理の意義・目的 給食の基礎情報と帳票、IT 管理 給食運営業務と事務管理の連携	教科書で事前学修（2時間）・講義資料などで事後学習を行う（2時間）
15 (山部) (渡辺)	給食経営管理のまとめ	総合的な給食運営について	教科書で事前学修（2時間）・講義資料などで事後学習を行う（2時間）

授業科目	給食経営管理論Ⅱ Nutrition and Food Service Management Ⅱ	担当教員	山部　秀子、渡辺　いつみ
対象学科・年次・学期	栄養学科・2 年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				◎	○			

授業目的	給食におけるマーケティング理論の活用、給食組織の運営管理について学修する。さらに経営管理の理論を基本として、給食施設における利用者のアセスメント情報にもとづいた栄養・食事管理の目標を立て、食事摂取基準を活用した給食施設の給与栄養目標量の決定、献立への展開を学修する。
到達目標	1．各給食施設の特徴を理解し、給食計画に必要な情報、分析について説明することができる。 2．給食を運営するための組織や経営資源を総合的に判断し、人材育成を含めた給食管理のトータルマネジメントについて説明できる。 3．対象者に合わせた食事計画を作成できる。
関連科目	給食経営管理論Ⅰ、給食経営管理論実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの他、専門基礎科目および専門科目が関連する
テキスト	三好恵子他編著「給食経営管理論」（第一出版） ※必要に応じて資料配布
参考書	日本人の食事摂取基準（第一出版）又は厚生労働省 HP からもダウンロード可能 高城孝助編「実践給食マネジメント論」（第一出版） 塚婦美子編著「改訂新版大量調理」（学建書院） 食品成分表（各自が現在所持している成分表で良い） その他　給食献立集などを参考とする

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準・観点
	試験	60	目標の達成状況を下記の点から評価し、60 点以上を合格とする ①　試験　60 点 学修内容について試験を行い、学修到達度を評価する ②　提出物　30 点 課題の作成(期日の厳守、内容について提示された事柄にそって適切に作成されているか) ③その他 10 点 授業・課題への取組み姿勢
	レポート		
	小テスト		
	提出物	30	
	その他	10	

履修上の留意事項	授業や課題には積極的に取り組み、不明な点は曖昧にせず調べる。食事計画等は課題作成によって理解度を測る。課題作成のためには授業時間以外に多くの時間が必要となる。課題提出期日を厳守すること。またインターネット等の情報は安易に使用しない。 下記の授業内容は、小グループ単位で行うため変則的となる。詳細はガイダンスで説明する。 また、3 年次に開講される臨地実習（給食経営管理論実習Ⅱ）の先修条件科目の一つである。
課題に対するフィードバックの方法	提出課題については、コメントを付して返却すると共に、翌週以降の授業において解説を行う。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、給食施設での栄養・食事管理の実務例、また献立作成等で配慮すべき事柄などについて具体例や実践例をあげて理解しやすい授業を行う。

回数(担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (山部) (渡辺)	ガイダンス	授業の目的、概要、給食経営管理の意義、役割について	給食経営管理論Ⅰの内容を事前学修、事後は学習した内容を整理・確認する。
2 (山部)	給食施設の栄養・食事管理(1)	大学実習食堂で提供される献立の事前評価、改善を行い、望ましい献立作成のあり方を検討する。	教科書を読み事前学修（2 時間)、事後は学修した内容整理・確認する（2 時間）
3 (山部)	給食施設の栄養・食事管理(2)	管理栄養士の倫理綱領について 各種給食施設における利用者の特徴、給食の目的、根拠法令、栄養士の配置規程等を把握する	教科書を読み事前学修（2 時間)、事後は学修した内容整理・確認する（2 時間）
4 (山部)	給食施設の栄養・食事管理(3)	高齢者施設における栄養・食事管理(2) 高齢者施設にあった献立や期間献立から作業指示書、発注書を作成する	教科書を読み事前学修（2 時間)、事後は学修した内容整理・確認する（2 時間）
5 (山部)	顧客管理、人事・労務管理	顧客管理の意義、目的、給食における顧客サービス、人事・労務管理の目的・範囲・人材育成	教科書を読み事前学修（2 時間)、事後は学修した内容整理・確認する（2 時間）

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6 (山部)	給食施設の危機管理	危機管理・情報管理 インシデント・アクシデントレポート、災害時のための貯蔵と献立 災害時における他組織との連携、日本栄養士会との関わり	教科書を読み事前学修（2 時間)、事後は学修した内容整理・確認する（2 時間）
7 (山部)	顧客管理、人事・労務管理（2）	コミュニケーション能力の高め方を学ぶ	教科書を読み事前学修（2 時間)、事後は学修した内容整理・確認する（2 時間）
8 (山部) (渡辺)	経営管理、経営理念と組織	経営管理の意義・目的、経営管理の機能と展開、経営組織、経営資源・戦略	教科書を読み事前学修（2 時間)、事後は学修した内容整理・確認する（2 時間）
9 (渡辺)	経営管理、経営理念と組織	経営管理の意義・目的、経営管理の機能と展開、経営組織、経営資源・戦略	教科書を読み事前学修（2 時間)、事後は学修した内容整理・確認する（2 時間）
10 (山部) (渡辺)	給食運営の委託	委託の目的、形態と方法、委託に関する法規、給食の外部委託の現状	教科書を読み事前学修（2 時間)、事後は学修した内容整理・確認する（2 時間）
11 (山部) (渡辺)	大量調理技法（1）	大量調理における品質管理・栄養教育・衛生管理の計画・検討・分析・評価	教科書を読み事前学修（2 時間)、事後は学修した内容整理・確認する（2 時間）
12 (山部) (渡辺)	大量調理技法（2）	大量調理における献立管理・品質管理・作業管理の計画・検討・分析・評価	教科書を読み事前学修（2 時間)、事後は学修した内容整理・確認する（2 時間）
13 (山部) (渡辺)	大量調理技法（3）	大量調理業務における、食材料管理・生産管理・衛生管理・安全管理の計画・検討①	教科書を読み事前学修（2 時間)、事後は学修した内容整理・確認する（2 時間）
14 (山部) (渡辺)	大量調理技法（4）	大量調理業務における、食材料管理・生産管理・衛生管理・安全管理の計画・検討②	教科書を読み事前学修（2 時間)、事後は学修した内容整理・確認する（2 時間）
15 (山部) (渡辺)	給食経営管理のまとめ	総合的な給食経営管理について	教科書を読み事前学修（2 時間)、事後は学修した内容整理・確認する（2 時間）

授業科目	給食経営管理論実習Ⅰ Nutrition and Food Service Management Practicum Ⅰ	担当教員	山部　秀子、渡辺　いつみ
対象学科・年次・学期	栄養学科・2 年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	実習	単位数	1 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				○	◎		○	

授業目的	給食経営管理論Ⅰ・給食経営管理論Ⅱで学修した知識を基礎として、実際に対象者を想定した献立作成、生産管理、品質管理、衛生管理計画等を立案し、食材購入から大量調理、提供、評価等の給食経営管理システムを実習する。実習を通して食材管理、食材購入計画、献立と食数に応じた食材料の発注・購入・検収・保管などを修得する。実習によって給食の計画・生産・提供・評価のサイクルを一巡し、給食経営管理システムを運用して、特定多数の人々に給食を提供するための実践的な知識、能力を身につける。
到達目標	1. 特定多数を対象とした食事計画に基づき、食材の調達、大量調理、食事・食情報提供、食事摂取状況把握、評価など、一連の給食の運営と管理の流れを説明できる。 2. 給食経営管理論実習Ⅱ臨地実習に備え、給食を運営するために必要な知識・技術について説明できる。
関連科目	調理学、調理学実習Ⅰ・Ⅱ、給食経営管理論Ⅰ、給食経営管理論Ⅱの他、これまでに学修してきた専門基礎科目および専門科目が関連する
テキスト	実習ノート及び資料等を配布する。
参考書	大量調理衛生マニュアル（厚生労働省） 調理場における衛生管理＆調理技術マニュアル（文部科学省） 食品成分表（各自が現在所持している成分表で良い） 調理のためのベーシックデータ（女子栄養大学出版部）

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準・観点
	試験	—	目標の到達状況を下記の点から評価し 60 点以上を合格とする。 ①安全衛生試験 10 点　衛生管理の知識の修得度評価 ②その他 90 点(配点割合は以下の通り) ・グループワークにおける帳票類の作成と提出および各自の役割担当への積極的参加と成果への評価 30 点 ・実習記録の評価 10 点 ・献立作成の評価 10 点 ・実習作業中の取り組み評価 30 点 ・自己評価 10 点　実習における自己評価
	レポート		
	小テスト		
	提出物	10	
	その他	90	

履修上の留意事項	体調管理（各自が厳しく自己管理）を行い実習に備えること。特に作業中のリスク管理、安全管理を徹底し、周囲の動きに気を配り器具・機械の取り扱いを行うこと。調理従事者としての衛生管理をしっかりと行うこと（大量調理施設衛生管理マニュアル等をしっかりと読み込んでおく）。 ＊グループに分けて、ローテーションしながら授業を進めるので、順番については、変更する場合がある。
課題に対するフィードバックの方法	実習毎に反省会を実施し、フィードバックを行う。また、中間報告会等において全体的な取り組みに対してフィードバックを行う。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、衛生管理を基本とした栄養食事管理、栄養教育等を含む総合的な給食の運営について、実践的に実習を構築して、学内ではあるが実践力を養えるような授業を行う。

回数(担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (山部) (渡辺)	ガイダンス	給食経営管理論実習について 学内調理施設、設備、調理器具、食器などについて 実習書に基づき、実際の内容について学修する	教科書で事前学修、講義資料などで事後学習を行う。
2 (山部) (渡辺)	実習準備 実習食試作	給食経営管理実習食の試作	打ち合わせ等で事前学修、実習後評価整理等を行う。
3 (山部) (渡辺)	実習準備（1）	試作の評価、予定献立決定、各実習における作業分担について 献立価格管理、帳票、発注書作成、食事調査票作成	各担当者との事前打ち合せ、実習後はノートの整理等で事後学習を行う。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
4 (山部) (渡辺)	実習準備（2）	栄養教育媒体、リーフレット、ポスター等作成 大量調理実習における要点、留意点、実習手順の確認	各担当者との事前打ち合せ、実習後はノートの整理等で事後学習を行う。
5 (山部) (渡辺)	実習前打ち合わせ（1） 給食運営の演習（1）	実習食作成のための事前ミーテイング（栄養管理班） ・グループで作成した献立について献立の説明する ・調理員へ作業内容の解説をする	各担当者との事前打ち合せ、実習後はノートの整理等で事後学習を行う。
6 (山部) (渡辺)	給食提供（1）	学内の大量調理施設において実習　（栄養管理班）	各担当者との事前打ち合せ、実習後はノートの整理等で事後学習を行う。
7 (山部) (渡辺)	実習前打ち合わせ（2） 大量調理技法の演習（1）	実習食作成のための事前ミーテイング（調理班）） ・他のグループで作成した献立について内容の把握 ・作業内容の確認	各担当者との事前打ち合せ、実習後はノートの整理等で事後学習を行う。
8 (山部) (渡辺)	給食提供（2） 大量調理技法の実践	学内の大量調理施設において大量調理技法の実習　（調理班）	各担当者との事前打ち合せ、実習後はノートの整理等で事後学習を行う。
9 (山部) (渡辺)	報告会（1）	給食経営管理論実習の成果報告会 給食の評価、課題発見、解決方法等報告を行う	各担当者との事前打ち合せ、実習後はノートの整理等で事後学習を行う。
10 (山部) (渡辺)	実習前打ち合わせ（3） 給食運営の演習（2）	実習食作成のための事前ミーテイング（衛生管理班）	発表準備、発表後は自己評価、実習ノートの整理等を行う。
11 (山部) (渡辺)	給食提供（3）	学内の大量調理施設において実習　（衛生管理班）	各担当者との事前打ち合せ、実習後はノートの整理等で事後学習を行う。
12 (山部) (渡辺)	実習前打ち合わせ（4） 大量調理技法の演習（2）	実習食作成のための事前ミーテイング（調理班）） ・他のグループで作成した献立について内容の把握 ・作業内容の確認	各担当者との事前打ち合せ、実習後はノートの整理等で事後学習を行う。
13 (山部) (渡辺)	給食提供（4） 大量調理技法の実践（2）	学内の大量調理施設において大量調理技法の実習　（調理班）	各担当者との事前打ち合せ、実習後はノートの整理等で事後学習を行う。
14 (山部) (渡辺)	報告会（2）	給食経営管理論実習の成果報告会 給食の評価、課題発見、解決方法等報告を行う	発表準備、発表後は自己評価、実習ノートの整理等を行う。
15 (山部) (渡辺)	まとめ	給食経営管理論実習の総合評価	学んだことを振り返り、まとめる

授業科目	地域連携ケア論 II Theory of Community-based Care II	担当教員	槌本　浩司、氏家　志乃、澤田　優美、小川　克子
対象学科・年次・学期	看護学科/栄養学科・2 年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	1 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	○	○	○		○	◎	

授業目的	「地域連携ケア論 I ～IV」では、1～4 年次を通じて、地域の生活と健康との関連、地域の健康課題と社会資源、保健医療福祉チームに係る他職種の理解と連携方法、事例からの学びを通して管理栄養士の専門性や役割理解を深めることを目的とする。そのうち、2 年次の本科目では、地域連携ケア論 I で学んだ内容をもとに、住み慣れた地域で人々が自分らしく生活し続けるためには、どの様な社会資源が整うと良いのか考え、地域で生活する人々の生活および健康上の課題を解決するために、地域にはどのような社会資源があるのか、どのような支援やサービス、システムがあるのかを理解する。その中で、人々の生活を支える専門職の専門性と役割について理解を深める。
到達目標	・「地域で生活するということ」とそれに影響する要因、地域住民の抱える生活・健康上の課題について、地域連携ケア論 I での学びを振り返る。 ・地域に存在する社会資源、サービス、システムについて理解する。 ・地域で活動する保健医療福祉分野の専門職の役割、専門性、業務内容を理解する。 ・地域包括ケアシステムについて理解する。 ・地域でその人らしく生活するためにどのような社会資源が必要なのか考察する。
関連科目	これまで既習の全ての教科目と関連します。
テキスト	なし
参考書	開講時に提示します。

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準・観点
	試験		各回、授業内容に応じた提出物（40%）を予定しています。 また、目標の達成状況をレポート（60%）に記載しましょう。 詳細は授業の中でも説明します。
	レポート	60	
	小テスト		
	提出物	40	
	その他		

履修上の留意事項	地域連携ケア論 I と一体の科目として学習しましょう。
課題に対するフィードバックの方法	各講義での提出物については次の講義内で全体にフィードバックを行いましょう。 また、最終レポートに関しては、フィードバック内容を記載し返却します。
実務経験を活かした教育内容	地域で実務経験のある教員が、経験を基に分かりやすく講義を展開します。

回数（担当）	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1（小川）	授業ガイダンス	ガイダンス。「地域連携ケア論 I 」の振り返り。 健康とは、地域で暮らす生活者の生活と健康との関連、地域の健康課題とはなにか、地域に存在する社会資源とサービスについて	授業前にシラバスを読む（1 時間）。授業後には、配付資料を確認し、内容を復習する（2 時間）。
2（小川）	地域包括ケアシステムとは	「地域包括ケアシステム」について理解する	授業前に前回の学習内容を復習する（1 時間）。授業後には、内容を復習する（2 時間）。
3（槌本）	保健医療福祉における専門職の役割	保健医療福祉における各種の専門職とその役割について理解する	授業前に前回の学習内容を復習する（1 時間）。授業後には、内容を復習する（2 時間）。
4（小川）	地域における生活者を支える専門職からの講話　I	専門職者からの見た地域と生活者と健康課題について I （ゲストスピーカー　訪問看護師）	授業前に前回の学習内容を復習する（1 時間）。授業後には、内容を復習する（2 時間）。
5（小川）	地域における生活者を支える専門職からの講話　II	地域包括支援センターの機能と役割について （東区第 2 層　生活支援コーディネーター　高橋　悦子氏）	授業前に前回の学習内容を復習する（1 時間）。授業後には、内容を復習する（2 時間）。
6（澤田）	地域における生活者を支える専門職の専門性と役割について I	地域における生活者を支える専門職の専門性と地域包括ケアの中における役割について気づきの共有（その 1）	授業前に前回の学習内容を復習する（1 時間）。授業後には、内容を復習する（2 時間）。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7 (氏家)	地域における生活者を支える専門職の専門性と役割について II	地域における生活者を支える専門職の専門性と地域包括ケアの中における役割について気づきの共有（その２）	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。
8 (槌本)	地域における生活者を支える専門職の専門性と役割について III	地域における生活者を支える専門職の専門性と地域包括ケアの中における役割について気づきの共有（その３）	授業前に前回の学習内容を復習する（1 時間）。授業後には、内容を復習する（2 時間）。